

2024 年度～2028 年度

第四次恵那市子どもの読書活動推進計画



恵那市中央図書館

恵那市

目 次

第1章 計画策定（第四次）にあたって	1
計画策定の趣旨	1
計画策定の背景	2
第2章 第三次計画における取り組み	5
第三次計画の考え方	5
これまでの取り組み状況	6
読書調査の概要	8
第三次計画の成果と課題	9
第3章 第四次計画の策定の基本的な考え方	12
基本理念 計画の指標	12
基本目標と基本施策	13
第四次計画の位置づけ	14
計画の対象	14
計画の期間	14
第4章 子どもの読書活動推進のための施策	15
1 子どもが読書に親しむ機会の提供	15
（1） 読書に親しむきっかけづくり	15
（2） 読書習慣の確立	18
2 子どもをとりまく読書環境の整備	22
（1） 図書館、コミュニティセンター図書室の整備・充実	22
（2） 家庭、地域、こども園等、学校における読書環境の整備	24
3 子どもの読書活動を推進するための人材育成	29
（1） 市民ボランティアの育成	29
（2） 図書館における人材育成	30
第5章 計画の推進に向けて	33
第6章 参考資料	34
1 読書調査結果	34
2 子どもの読書活動の推進に関する法律	62
3 恵那市子どもの読書活動推進計画策定委員会	64

第1章 計画策定（第四次）にあたって

計画策定の趣旨

第一次において、「読書活動は、子どもが人生をより豊かに生きる力を身につけていく上で欠くことができないものであり、子どもが自発的に行う遊びや活動の中で五感を働かせ、喜怒哀楽の感情を豊富に経験しながら、豊かな人間性を身につけていく。同様に読書を通じて言葉を学び、本の楽しさやおもしろさ、素晴らしさから豊かな感性や表現力、想像力を養う。」をもとに子どもの読書活動の推進にあたってきました。

また、第二次では、「いつでも どこでも 本を」をコンセプトに、子どもが読書活動の楽しさや素晴らしさに出会い、読書活動ができる環境づくりを進め、子どもの健やかな成長を図る目的で、子どもの読書活動の推進にあたってきました。

次の第三次計画では、子どもたちが読書を通じて言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を養い、さらに高いコミュニケーション能力、自ら考え自ら行動していく力を身につけることができるように、読書に親しむ環境づくりを進め、生涯にわたって楽しく学ぶことができる「読書のまち」づくりを推進してきました。

令和5年、国が策定した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、新型コロナウイルスの感染拡大による学校の臨時休業、図書館の臨時休館も影響し、児童用の貸出冊数や全校一斉読書活動を行う学校の割合は減少。不読率（1ヶ月に一冊も本を読まない子どもの割合）も目標値（小学校2%、中学校8%、高等学校20%以下）には達していないことから、不読率の低減、多様な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書活動の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進を、読書活動の推進のための基本的方針としています。

これを踏まえ、第三次恵那市子どもの読書活動推進計画を検証し、第四次計画を策定するものです。

計画策定の背景

■子どもを取り巻く社会情勢

近年、少子・高齢化はどんどん加速し、核家族化や単身世帯が増えています。子どもと高齢者、地域の関わりが弱まる中、テレビ、インターネット、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など情報技術の発展、人々の価値観や生活様式の多様化等、子どもをとりまく生活環境は大きく変化してきています。

国の調査においても、あらゆる分野のさまざまな情報がインターネット等により簡単に手に入る一方で、視覚的な情報と言葉の結びつきが希薄になり、情報の中身を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているのではないかという指摘もあります。

その中で、子どもたちはさまざまな時代の変化に積極的に対応し、他者と一緒に課題を解決することや、さまざまな情報を見極め、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められています。

■子どもの読書活動をめぐる動き

国では、読書の持つ価値を認識し、子どもの読書活動を支援するため、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立し、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」が策定されました。平成20年3月には、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」、平成25年5月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」、平成30年3月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」、令和5年3月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第五次）」が策定されています。

岐阜県では、読書活動により子どもたちの誰もが自立して生きる力を身につけることができるよう、平成16年3月に「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第一次）」、平成22年3月に（第二次）、平成27年3月に（第三次）、令和2年3月に（第四次）が策定されました。

本市においても、国や県の施策の動向を踏まえ、第三次の趣旨を継承し、この5年間の成果と課題を踏まえ、引き続き第四次計画の実施に取り組みます。

読書活動推進計画に関する国・県・市の動き

年月	国	岐阜県	恵那市
平成13年12月	「子どもの読書活動の推進に関する法律」		
平成14年8月	「第一次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成16年3月		「第一次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
平成17年7月	「文字・活字文化振興法」		
平成18年12月	「教育基本法」の改定		
平成19年6月	「学校教育法」等教育三法の改正		
平成20年3月	「第二次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成20年6月	「図書館法」の改正、 「国民読書年」に関する決議		
平成21年3月			「第一次恵那市子どもの読書活動推進計画」
平成22年3月		「第二次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
平成24年12月	図書館の設置及び運営上の望ましい基準		
平成25年5月	「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成26年3月			「第二次恵那市子どもの読書活動推進計画」
平成26年6月	「学校図書館法」の改正		
平成27年3月		「第三次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
平成28年10月	「これからの学校図書館の整備充実について」		
平成29年3月	「幼稚園教育要領、小学校及び中学校学習指導要領」の公示		
平成30年3月	「高等学校学習指導要領」の公示		
平成30年3月	「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		
平成31年3月			「第三次恵那市子どもの読書活動推進計画」
令和元年6月	「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」策定		

令和2年 3月		「第四次岐阜県子どもの読書活動推進計画」	
令和4年 1月	第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」の策定		
令和4年 12月	「学校教育の情報化推進計画」策定		
令和5年 3月	「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」		

第2章 第三次計画における取り組み

第三次計画の考え方

第三次計画では、子どもの発達段階に応じた取り組みにより、子どもの読書離れを防ぎ、読書に親しむきっかけづくりや読書習慣の形成に努めるため、第二次計画で定めた「3つの基本目標」「6つの基本施策」を継承して、子どもの読書活動を推進してきました。

基本理念

えなっこ育む豊かな感性

本でつながるコミュニケーション

基本目標1

子どもが読書に親しむ機会の提供

基本目標2

子どもをとりまく読書環境の整備

基本目標3

子どもの読書活動を推進するための人材育成

これまでの取り組み状況

6つの基本施策（１）読書に親しむきっかけづくり（２）読書習慣の確立（３）図書館等の整備、充実（４）家庭、地域、学校における読書環境の整備（５）市民ボランティアの育成（６）図書館における人材育成から、主に取り組んだ事業をまとめました。

（１）読書に親しむきっかけづくり

- ・ブックスタート事業では、7 ヶ月児教室の際に、図書館司書と図書館サポーターにより、親子に絵本を読み聞かせるとともに、絵本の楽しみ方、絵本の良さを伝え、家族で本を通じた心触れあうときを持つきっかけづくりとしました。
- ・こども元気プラザ、子育て支援センターにて就園前の親子へ読み聞かせを行い、読書活動の大切さについて伝えました。
- ・3 歳児の保護者へ、読書記録をつけるための読書手帳を配付するとともに、読み聞かせの良さを伝える機会を作りました。
- ・中央図書館での司書や図書館サポーターによるおはなし会や、こども園等へ訪問し読み聞かせを実施することによって、子どもたちが本の楽しさを知ることができるよう働きかけを行いました。
- ・大人が子どもの頃に出会った 25 年以上長く読まれてきた絵本を「25 歳の絵本」と呼び、中央図書館やこども園に設置し家族で読んでもらうよう働きかけを行いました。
- ・子ども向けイベントを開催し、図書館に訪れるきっかけづくりとしました。

（２）読書習慣の確立

- ・学校巡回司書が、学校において資料を紹介し、授業の内容を深めたり、興味や関心を広げたりするためのブックトークを行いました。
- ・図書館司書や図書館サポーターによる図書館でのおはなし会の開催や、地域の方が小学校へ出向いて読み聞かせをすることで、子どもたちに本の楽しさを伝えました。
- ・何を読んだらいいかわからない子どもや、何を勧めたらいいかわからない保護者のために、成長に合わせて子どもに読んで欲しい本を「子どもが好きな本リスト」として、小学校入学時に配付するとともに、リストに挙げた本を中央図書館に準備し、いつでも読めるようにしました。
- ・異年齢との交流は、新型コロナウイルス感染症対策のため、十分な活動ができませんでした。
- ・小・中学校の教育活動の中に、読書月間、読書週間並びに一斉読書などに取り組む時

間を設け、小中学生が読書に親しむ時間を確保しました。

- ・すべての学校において、おすすめ本の紹介等の活動ができました。ビブリオバトルは、一部の中学校において、ICTを活用した学校間での共同開催を行いました。
- ・市民が読書に親しむ日として第三日曜日を「恵那市読書の日」とし、この日を中心に、さまざまなイベントを開催し、読書活動の普及・啓発を行いました。
- ・PTA 活動と学校が連携し、読書活動の重要性についての理解を深め、読書週間の機会に、親子で読書の時間を共有しました。

(3) 図書館等の整備・充実

- ・発達段階に合わせ、「25歳の絵本」、「えほんのおもいで」、「子どもが好きな本リスト」のパンフレットを作成し、「25歳の絵本」は市内こども園全園に配置しました。また、中央図書館では、「子どもインフォメーションコーナー」を設けて医学、心理学、教育、社会等、さまざまな分野における子どもに関する資料を提供しました。児童書、ジュニアコーナーなどでも年齢や季節、テーマにあわせて本の紹介をする工夫をしました。
- ・中央図書館の広報誌「えなとだより」の発行、広報えなやホームページの活用などにより、本に対する興味や関心を広げるよう情報発信を行いました。
- ・中高生を中心とした若い人に読んでもらいたい図書、将来の姿を模索する助けとなるような図書資料の収集をして提供しました。
- ・障がいのある子への理解を深めるために、障がい者週間の際に障がいに関する本の紹介を行いました。また、車いすの配置や、視覚障がい者向けに音声・拡大読書機を設置しました。
- ・中央図書館では、小中学校の授業で役立つ資料の収集、学校のリクエストに応じた資料を提供する体制を整え、定期的に学校を巡回し、本を配送するシステムを整えました。

(4) 家庭、地域、学校における読書環境の整備

- ・何を読んだらいいかわからない子どもや、何を勧めたらいいかわからない保護者のために、成長に合わせて子どもに読んで欲しい本を「子どもが好きな本リスト」として、小学校入学時に配布するとともに、リストに挙げた本を中央図書館に準備し、いつでも読めるようにしました。【再掲】
- ・市民が読書に親しむ日として第三日曜日を「恵那市読書の日」とし、この日を中心に、さまざまなイベントを開催し、読書活動の普及・啓発を行いました。【再掲】

- ・中央図書館とコミュニティセンター図書室が連携し、定期的な本の配送サービスと併せて、予約した中央図書館の本を、近くのコミュニティセンターで受け取れるよう、直接中央図書館を利用できない子どもたちの利用機会を増やしました。
- ・地域の読書推進活動団体等、地域の方々が中心となり、コミュニティセンター図書室の企画・展示などを行い、読書環境の整備に努めました。

（５）市民ボランティアの育成

- ・図書館サポーターを養成し、子どもたちへの読み聞かせや読書推進のための催し物の企画・運営、図書館の環境整備など、読書活動の推進を行いました。
- ・地域の方々が中心となり、読書を楽しむだけでなく、子育てやまちづくり活動等、必要な知識や情報の収集を支援し、人材育成の充実を図りました。

（６）図書館における人材育成

- ・国、県、各種団体の主催する研修会へ参加し、技術や資質の向上を図りました。
- ・情報交換を密に行い、職員間の知識やノウハウの共有を図り、サービスの向上に努めました。

読書調査の概要

（１）調査の目的

第三次恵那市子どもの読書活動推進計画の期間満了に伴い、計画全体の評価並びに本計画策定の基礎資料とするため実施しました。

■調査の概要

調査対象者	①3歳児の保護者、②小学1年生～3年生、③小学4年生～中学3年生、 ④市内の高校に在学する2年生
調査方法	インターネットによる回答 ①②は保護者、③④は本人による回答
調査期間	令和5年7月11日～7月20日、9月7日～9月21日(小学1～3年生)
回答結果	依頼数 ①270件 ②999件 ③2,315件 ④357件 回答率 ①59% ②26.4% ③63.4% ④79%

（２）調査結果 P.34～P.61 に掲載

第三次計画の成果と課題

前段より、進めてきた第三次計画の取り組みについては、読書調査や、基本施策から検証した結果、概ね進展が図られています。

乳幼児期の読書状況

子どもに読み聞かせをしている回数について、「毎日もしくは週に2日～3日」と答えた割合が、前回の調査の77.8%から55.9%と減少し、週に1回が17.6%から39.0%と増加しています。読み聞かせをしている方では、母と回答している割合が、前回調査の65.3%から90.4%と、大幅に増加しています。

一方で、読み聞かせが好きな保護者の割合は、81.1%であることから、子どもの読書活動を推進していく上で、母親に限らず、家族全体で家庭での読み聞かせの時間を設けることが重要となります。

読み聞かせを始めたきっかけは、「ブックスタート」が19.1%あり、ブックスタートの取り組みが有効であることが分かります。読み聞かせを始めた時期も、「7か月頃から」が最も多くなっています。その中で、「お腹にいる頃から」と「3か月頃」を合わせて32.5%と、前回調査の23.7%より増えており、読み聞かせの大切さを理解し、早くから実践している保護者が増えていることがわかります。

このことから、引き続き、保護者に読書の大切さを周知していく活動が有効だと思われます。

小中学生の読書状況

1ヶ月に1冊も読まなかった不読率は、小学4年から6年では6.6%（全国平均6.4%）と全国平均より高い数値となっています。中学生では12.8%（全国平均18.6%）と全国と比較して低い数値となっています。前回調査と比較すると、小学4年から6年では2.7%から6.6%、中学生では、5.9%から12.8%とどちらも増えています。恵那市独自の小学1年から3年の調査では、不読率が8.3%と小学4年から6年を上回っています。

平均読書冊数は、小学4年から6年で19.1冊（全国平均13.2冊）、中学生8.7冊（全国平均4.7冊）と全国と比較して高い数値となっています。前回調査と比較すると、小学4年から6年では15.1冊から19.1冊、中学生では、7.2冊から8.7冊と増えており、恵那市の子ども読書活動に関する取り組みの成果が見られます。小学4年から中学生において、平均読書冊数が増えたものの、不読率も上昇していることから、読書習慣の2極化が

進んだと言えます。

また、小学1年から3年では、平均読書冊数が11.5冊と小学4年から6年を下回っていることと、不読率が小学校高学年より高いことから、小学校低学年での取り組みが有効であると考えられます。

学校での読書活動以外で本を読まなかった理由として、「読みたいと思わなかった」という回答が小学4年から中学生で79.3%と前回調査の63.2%から大きく上昇しています。小学1年から3年においても、48.8%となっており、小学校低学年から読書に対する興味の低下が始まっているといえます。

理由としては、「いつも読まない」、「スマートフォン、タブレットの方がおもしろい」、「テレビやDVD、ゲームのほうがおもしろい」が上位にあがっています。平日に家でゲーム、動画などでタブレットやパソコンを使用する時間が、小学6年生以上では、約9割が1時間以上であることから、読書以外の事に費やす時間が増えていること、読書習慣が定着していないことが要因であると考えられます。

子どもだけでなく、大人たちにも環境の変化、生活様式の多様化の影響は否めません。

保護者や周りの大人たちが、家庭や地域、学校それぞれの立場から連携して、市全体でサポートし、読書の必要性を理解し、読書が習慣となる環境をつくりだす働きかけを行い、子どもの読書活動をより一層推進する必要があります。

本を読む理由として「本が好きだから」に次いで、「学校で本を読む時間があつたから」「知らないことがわかるから」と回答しており、児童生徒にとって一番身近にある学校図書館は、さまざまな本を手に入る機会が多いことから、学校図書館の一層の環境整備と有効活用が重要です。

また、学校図書館では、図書委員を中心とした本の紹介などの活動や、友だち同士で本を薦め合うなど、児童生徒が主体となった読書への関心を高める取り組みも有効と考えられます。

高校生の読書状況

市内高等学校生徒の読書の好きな割合は前回調査の58.0%から72.0%と増加し、不読率も前回の41.3%から30.1%（全国平均51.1%）と低くなっており、読書習慣が身についていると思われます。

電子図書を読んでいる割合は1割程度で、多くの生徒が紙書籍で読んでいます。

本を1ヶ月に1冊も読まなかった理由として、「勉強、部活動等で読書をする時間がない」が最も多く、次いで「スマホを使用する時間が多く読書する時間がない」となっています。「スマホを使用する時間が多く読書する時間がない」と回答した割合は、前回調査の

20.3%から 28.6%と増加、また、平日の家でのゲーム等でのスマートフォン、タブレットを 1 時間以上利用すると回答した割合が 97.2%あり、高校生においても、スマートフォン等の使用時間が多くなっています。

読む本の選び方は、「図書館で見て」「書店の店頭で見て」が多く、図書館や書店で本の情報を得ていることがわかりました。また、友だちに薦められたり、話題となっている本を選ぶ基準にしている割合も増加しています。

自分にとって読書が必要と考える生徒は 86.2%と、前回調査の 77.9%より増加し、中学生と比較して読書離れが進んでいる中でも、必要と思っている生徒が多いことがうかがえます。

以上のことから、読書時間を確保していくことが課題であるといえます。

中央図書館

児童コーナー



クンタンのおきにいりコーナー



ジュニアコーナー



第3章 第四次計画策定の基本的な考え方

恵那市の生涯学習の基本である、恵那市三学のまち推進計画は、生涯学び続けることの大切さを説いた、郷土の先人佐藤一斎の「三学の精神」を理念としています。施策の柱である「書に学ぶ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」を進めるためにも、生涯学び続ける基礎をつくる子どもの読書活動の推進が極めて重要となります。

子どもたちが読書を通じて言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を養い、さらに高いコミュニケーション能力、自ら考え自ら行動していく力を身につけることができるように、読書に親しむ環境づくりを進め、生涯にわたって楽しく学ぶことができる「読書のまち」づくりを推進していきます。

基本理念

えなっこ育む豊かな感性

本でつながるコミュニケーション

計画の指標

基本理念を実現するために、以下の3つの事項を読書活動の指標として進めていきます

- ① 読書が好きな子どもを増やします。
- ② 1ヶ月に1冊以上、本を読む子どもを増やします。
- ③ 読み聞かせが好きな保護者を増やします。



基本目標と基本施策

本計画では、子どもの発達段階に応じた取り組みにより、子どもの読書離れを防ぎ、読書に親しむきっかけづくりや読書習慣の形成に努めるため、第一次計画からの基本的な考え方である「3つの目標」を継承して、子どもの読書活動を推進する施策を講じます。

基本目標 1

子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書を通じて言葉を学び、読解力や想像力、思考力、表現力等を身につけ、読書の楽しさを知るなど、読書に親しむきっかけづくりや、読書習慣の確立、読書体験を深めるような機会を提供します。

基本施策

- (1) 読書に親しむきっかけづくり
- (2) 読書習慣の確立

基本目標 2

子どもをとりまく読書環境の整備

図書館をはじめとする読書環境の整備、その他の諸条件の整備・充実を図るとともに、子どもの読書活動に対する理解と関心を深め、家庭、地域、学校が連携協力し、恵那市全体で子どもの読書習慣を形成できる環境づくりを目指します。

基本施策

- (1) 図書館、コミュニティセンター図書室の整備、充実
- (2) 家庭、地域、こども園等、学校における読書環境の整備

基本目標 3

子どもの読書活動を推進するための人材育成

ボランティア活動団体、市民活動団体など子どもと本をつなぐ人材を育成し、図書館の職員や学校教職員とともに子どもが楽しく読書に親しむことができる活動を進めていきます。

基本施策

- (1) 市民ボランティアの育成
- (2) 図書館における人材育成

第四次計画の位置づけ

この計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」や「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第五次）」、県の「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第四次）」、また、本市の「第二次恵那市総合計画」、「恵那市三学のまち推進計画（第三次）」、「恵那市第2期子ども・子育て支援事業計画」の内容を踏まえ、それらとの整合性を図りながら、今後の恵那市の子どもの読書活動に関する施策を積極的に推進するための指針となるものです。

計画の対象

この計画にいう子どもとは、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」に準じて、おおむね18歳以下の者としています。

計画の期間

この計画の期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

なお、社会・経済情勢、子どもを取りまく読書環境の変化等に迅速に対応していくために、必要に応じて計画の見直しを行っていきます。

第4章 子どもの読書活動推進のための施策

1. 子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもの読書の二極化が進み、読書をする子としない子に分かれる傾向にあります。読書離れに対し、どのようにして本の楽しさや読書に関心を持たせ、読書を通じて豊かな人間性を育むかが大きな課題となります。

本市では、子どもが読書の楽しさに気付くきっかけづくりや読書習慣の形成に努めます。

(1) 読書に親しむきっかけづくり

■乳幼児期の取り組み

子どもが自ら読書をする習慣を身に付けるには、乳幼児期から本に親しむことが大切です。そのためには、子どもにとって最も身近な存在である保護者に対し、子どもを育てる上での読書の重要性について保護者の理解を得られるよう、さまざまな機会を通して働きかけを行うことが大切です。家庭において読み聞かせをしたり、子どもと一緒に図書館に出向いたりするなど、子どもが読書に親しむきっかけを作ることで、子どもは本と過ごす時間を楽しいと思うようになり、想像したり、表現したりすることが好きな子どもになると考えます。

また、こども園、幼稚園や保育園では、子どもが自由に本を選んで借りて、家族で読み聞かせが楽しめるよう、読書に親しむきっかけづくりを推進していきます。

施策の方向性

- 保護者をはじめ、子どもに関わる大人が本を読むことの大切さを理解し、乳幼児期から読書に親しむための働きかけに努めます。
- プレメッセージ、ブックスタート事業では、家族で本に親しむきっかけづくりとします。
- 子どもたちが絵本により興味を持つよう、おはなし会、乳幼児学級などの場で、読み聞かせを行います。
- こども園、幼稚園や保育園、子育て支援センター、こども元気プラザなど、子どもの集まる場所で、乳幼児が絵本や物語に親しむ活動を行います。

■図書館イベントを開催し、家族で図書館に訪れる機会を提供します。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
ブックスタート事業	赤ちゃんが、保護者とともに絵本を通じてゆっくり心ふれあうひとときを持つきっかけになるよう、7 か月児教室の折、図書館司書と図書館サポーターで、絵本の紹介及び絵本の楽しみ方や選び方のフォローをします。絵本を1冊プレゼントし、家庭での読み聞かせにつなげます。	・絵本の楽しみ方、選び方の紹介 ・家庭での読み聞かせの仕方の説明 ・6種類の中から1冊絵本をプレゼントする。	乳幼児期	中央図書館 健幸推進課	継続
乳幼児の保護者への啓発	こども園、こども元気プラザ、地域の乳幼児学級において、子どもを持つ親に対し、子どもの読書活動の大切さについて理解、関心をもってもらえるよう啓発します。	・絵本の紹介 ・読み聞かせの大切さ、家庭での読み聞かせの仕方の説明	乳幼児期	中央図書館 生涯学習課 子育て支援課 幼児教育課	継続
えほんのおもいで事業	絵本の楽しさがわかりはじめる年代である、3歳児に対して「えほんのおもいで」を配付するとともに、保護者に向けて読書に親しむための働きかけを行い日常的な読み聞かせを進めていきます。	・3歳児に、えほんのおもいで冊子を配付 ・保護者への説明 ・50ポイントで1冊絵本贈呈 ・おすすめ本を図書館に設置・ホームページに掲載	乳幼児期	中央図書館 幼児教育課	継続
読み聞かせ活動及びおはなし会の開催	図書館司書や図書館サポーターが図書館でおはなし会を開催したり、こども園等で、読み聞かせをしたりすることによって、子どもたちが本の楽しさを知ることができるよう働きかけます。こども園では、保育教諭や地域ボランティア等が1日のどこかで読み聞かせを行い、絵本や物語に触れる機会を設け、本の面白さを知り、絵本に触る、見る習慣がつくようにします。	・図書館でのおはなし会 ・こども園での読み聞かせ・おはなし会	乳幼児期	中央図書館 幼児教育課	継続
25歳の絵本事業	大人が子どものころ出会った25年以上長く支持されている絵本を、家族で楽しみながら、良い絵本に出会えるよう紹介していきます。	・読み聞かせ、おはなし会で取り入れる。 ・貸出数の確認と随時買い替え	乳幼児期	中央図書館	継続

子ども向けイベントの開催	子ども向けイベントを開催し、家族で図書館に訪れ本と親しむきっかけを作ります。	・本のバックやポイントカードなどの貸出イベント ・子ども向け公演	乳幼児期	中央図書館	継続
50歳の絵本事業	50年以上長く支持されている絵本を紹介します。	・コーナーの設置 ・リスト作成	乳幼児期	中央図書館	新規
プレメッセージ事業	もうすぐパパママ学級で、子どもが生まれる前の保護者に読み聞かせをするなど、読書の大切さについて、理解、関心を持ってもらえるよう啓発します。	・絵本の読み聞かせ ・絵本の貸出 ・情報提供	乳幼児期	中央図書館 子育て支援課	新規
見守り事業	中央図書館において、子ども連れの保護者がゆっくり本を選べるよう、本を選ぶ間、子どもの見守りを行います。	・月1回 第3日曜日	乳幼児期	中央図書館	新規
季節や活動に合った絵本の活用	廊下等を活用し、園児が育てている生き物に関わる絵本や、季節の活動、遊びに関わる本を配置し、自ら絵本を手に取り見ることや、友達と一緒に見る機会を作り出し、実体験とつなげます。	・園の廊下や休む場所等、こどもが手に取りやすい場所に絵本を置く。 - 配置目的に合わせた本の展示	乳幼児期	幼児教育課	新規
家族読書の推進	保護者会活動と園との連携を図りながら、子どもの読書活動の重要性についての理解を深め、家族による読書活動を広げていきます。	・園で絵本を貸し出し ・家族が子に読み聞かせをする。家庭で、絵本を開く。	乳幼児期	幼児教育課	新規

* 対象は、以下の期間とします。

乳幼児期（0歳～5歳）、小学生期（小学生）、中学生期（中学生）、高校生期（高校生）、全期（乳幼児期から高校生期まで）

ブックスタート



青空おはなし会



家庭での読み聞かせ



(2) 読書習慣の確立

■ 児童・生徒の読書習慣の確立

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っています。学習指導要領でも、子どもたちの言語活動の充実と学校図書館の計画的な利用や活用が求められており、一日の多くを過ごす学校において、読書の重要性に留意し、興味・関心を高められるよう多様な読書活動を進めます。

小中学校においては、全校一斉の読書活動や親子読書など、各学校の特色や地域、児童生徒の実態に即したさまざまな取り組みをしてきました。また、中央図書館とのネットワーク化により連携はスムーズになりました。

さらに、ICT（情報通信技術）を活用した学校教育が進められており、タブレット端末を用いた調べ学習などの読書活動についても取り組んでいきます。

インターネットなどから情報を得る機会が増える一方で、紙媒体から読み取る力も必要です。司書教諭、学校図書館巡回司書が中心となり、学校図書館を使った調べ学習や、本から読み取る力の強化にも努めていきます。

中央図書館においては、学校からの見学の受け入れ、子ども向けイベントの開催、小学生低学年向けの読み聞かせなど、今後もさまざまな形で中央図書館に来館してもらう機会を提供していきます。

思春期といわれる中学生・高校生の年代は、自分自身を見つめ直す意識が高まり、社会に対する興味や関心がさらに多様化する時期です。読書の必要性を感じ、主体的に読書に興味・関心を持てるような取り組みの推進を図る必要があります。

この年代に対しては、読書をしない割合が増加することから、探求的な学習活動等にあって、学校図書館、図書館の利活用を推進する取り組みや、図書委員による読書推進活動などの同年代同士の活動機会を設けていきます。

施策の方向性

- 子どもの読書活動に取り組む時間を設け、読書習慣の形成に努めます。
- 発達段階にあわせて変化する子どもの興味や関心を捉え、本に関する幅広い分野の情報提供を図ります。
- 子どもの進路や生き方と結びつけて、様々なアプローチを行い、子どもが主体的、意欲的に読書に取り組めるよう支援します。
- 子ども同士で本を紹介するなど、読書への関心を高める活動を行います。

主な取り組み事業

業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
ブックトーク事業	ブックトークは、一つのテーマに沿ってお話をしながら何冊かの本を紹介する読書案内です。子どもたちが今まで知らなかったことについて話を聞くことによって、新しい本との出会いがあり興味や関心を広げるきっかけとなります。 学校図書館巡回司書が学校において資料を紹介し、授業の内容を深めたり興味や関心を広げたりするブックトークの支援を行います。	・学校でのブックトーク ・教科と関連するような本の紹介 長期休暇前にお薦めの本を紹介する。	小学生期 中学生期	学校教育課 中央図書館	継続
読み聞かせ活動及びおはなし会の開催	図書館司書や図書館サポーターが、図書館でおはなし会を開催したり、地域の人達が小学校へ出向いて読み聞かせをしたり、地域行事でおはなし会をすることで、子どもたちが本の楽しさを知り、読書をする習慣が身につくよう支援します。	・図書館見学での小学生向けおはなし会 ・司書、図書館サポーター、地域サポーター、PTAによる読み聞かせ、おはなし会	小学生期	中央図書館 学校教育課	継続
「子どもが好きな本リスト」の作成・配付	子どもの成長に合わせて読むとよい本のリストを作成・配付するとともに、リストに挙げた本を図書館に準備し、いつでも読めるようにします。	・子どもの興味、関心をひく本のリストを小学1年生に配付 ・おすすめ本を図書館に設置・ホームページに掲載	小学生期	中央図書館	継続
異年齢と交流	小中学生がこども園、幼稚園、保育園、小学校等で読み聞かせを行い、子どもが絵本や物語にふれる機会が多様になるよう工夫し、本の楽しさを知り、読書をする習慣が身につくようにします。	・職場体験や、家庭科授業の保育実習で実施 ・小学生が、こども園や小学校の異年齢の子に読み聞かせを行う。	乳幼児期 小学生期 中学生期	学校教育課	継続
読書月間、読書週間、一斉読書	小中学校の教育活動の中に、読書月間、読書週間並びに一斉読書などに取り組む時間を設け、小中学生が読書に親しむ時間を確保し、子どもたちの読書習慣の形成に努めます。	・朝読書、読書週間、図書館祭りなどで、本に親しむ時間を確保する。 ・購入図書選定に図書委員も参加し、紹介コメントを作成する。	小学生期 中学生期	学校教育課	継続

学校図書館 を活用した 調べ学習の 推進	学校図書館を活用して、調べ学習を進めていきます。	・小学校では学級単位で学校図書館を利用する機会を設ける。 ・教科の授業、総合的な学習の時間で活用 ・ICT と図書館資料による調べ学習のそれぞれの良さを学習する。	小学生期 中学生期	学校教育課	継続
同世代による読書推進活動	読書の関心を高めるために、「おすすめ本の紹介」「ビブリオバトル」など、同世代から読書への関心を高める取り組みを進めていきます。	・ICTを活用した各学校の活動の交流・おすすめ本の紹介・お薦めされた本を読んだ感想紹介 ・ビブリオバトルの開催、紹介された本を読む。	小学生期 中学生期 高校生期	学校教育課 中央図書館	継続

■子どもの読書への家庭が果たす役割

読み聞かせは、好奇心、自己抑制、諦めず挑戦する力、自己主張、協調性など、試験では測りにくい「非認知能力」を高くするといわれています。家族で同じ世界を共有し、一緒にやりとりを楽しみながら取り組むことで、子どもの成長に良い影響を及ぼします。

インターネットなどのさまざまな情報メディアの発達により、子どもの身近にいる大人自身の読書の機会が少なくなり、特に、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及など、生活環境が大きく変化している中で、子どもの読書の習慣が薄れてきています。読書調査でもスマートフォン、タブレットなどに費やす時間が年齢とともに増えており、自分から進んで週 3 日以上読んでいる子どもの割合は小学 4 年生が約 55.6%であるのに対し、中学 3 年生では約 43.9%と、読書離れが進んでいることがうかがえます。

子どもの読書活動を進めていく上で、どの年代の子どもに重点的に働きかけていくかが、大きなかぎとなります。乳幼児期から児童期にかけて、家庭で本にふれる機会を多く持つことが、読書が好きな子どもを育てていくと考えられることから、家庭において子どもに読書習慣を身につけさせ、定着させていくことが重要となります。

そのためには、家族で読書をする、本について語り合うなど、大人も本を読む姿勢を示すことが必要です。恵那市三学のまち推進計画において、毎月第三日曜日を「恵那市読書の日」と定めていることから、これにあわせて、学校や地域、家庭と連携し、保護者に対しても読書の必要性について啓発していきます。

施策の方向性

- 保護者をはじめ、子どもとともに暮らす大人に対し、子どもの読書の大切さを広く伝え、継続して本に親しんでもらえるよう支援していきます。
- 日常生活を通して子どもが読書習慣を形成できるよう、家庭に向けた情報提供の充実を図ります。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
恵那市読書の日の普及・啓発	毎月第三日曜日を「恵那市読書の日」としました。この日を中心として、子どもの読書の大切さ、家族の触れ合いの大切さなど、読書活動の普及・啓発を図っていきます。	・POPによる本紹介 ・本のバックやポイントカードなどの貸出イベント ・コミュニティセンター・学校図書館での啓発	全期	中央図書館 生涯学習課 学校教育課	継続
家族読書の推進	P T A 活動と学校との連携を図りながら、子ども読書活動の重要性についての理解を深め、家族による読書活動を広げていきます。	・読書週間に、親子で読書の時間を共有する取組。親子での感想交流、子への励ましの言葉をカードに書く等。 ・読書手帳「この本よんだよ」配布	全期	学校教育課 中央図書館	継続

まわしてポン!えなとバック



ポップによる本紹介



2. 子どもをとりまく読書環境の整備

情報社会の進展により、余暇時間の過ごし方は多様化し、子どもをとりまく環境は大きく変化しています。

しかし、社会が変化しても、読書活動のもつ意義は本質的には変わるものではありません。

子どもたちが読書を通じて言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を養い、さらに高いコミュニケーション能力、自ら考え自ら行動していく力を身につけることができるように、読書ができる環境づくりを進めていきます。

(1) 図書館、コミュニティセンター図書室の整備・充実

■ 魅力ある読書環境の整備と資料の充実

恵那市では、生涯学習のまちづくりを進めるために「書に学ぶ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」の3本柱のもと「市民三学運動」を展開しています。

図書館は、一つ目の柱である「書に学ぶ」に代表される拠点施設であり、市民ひとり一人が生涯学び続ける基礎をつくるために、自ら考え、より豊かな生活の実現をめざすところです。多くの本の中から、子どもが自分で興味や関心のある本を自由に選び、手にとることができる環境や、また、保護者にとっても、子どもに読んでほしい本を選び、子どもの読書について相談をすることができる環境を整えます。

現在、「子どもの本のコーナー」には絵本や児童図書、紙芝居などの資料を子どもの成長に合わせて配置するなど、さまざまな工夫を凝らして、子どもが楽しく過ごせる空間作りに努めています。また、「ジュニアコーナー」では、中高生を中心とした若い人に読んでもらいたい読み物をはじめ、現在の自分を考え、将来の姿を模索する助けとなる図書を集め、「子どもインフォメーションコーナー」では、子育てに役立つさまざまな本が集めてあります。

少子化対策としても、家族で楽しめる図書館の環境づくりは重要であり、今後も子どもの読書活動を推進するために、図書資料の一層の充実を図るとともに、より多くの子どもや保護者が図書館を利用してもらえるよう、積極的な情報提供を行います。

施策の方向性

- 子どもに関する資料、子育てに関する資料をさらに充実させます。
- 子どもが図書館を魅力的な空間として感じ、より気軽に利用できるよう、読書環境の整備に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
子どもに関する資料、子育てに関する資料の収集	発達段階に合わせた図書資料や、さまざまな分野における子育てに関する資料を収集整理し、提供します。	・絵本・児童書、子育て関係の資料を収集 ・発達段階に応じた、出会うとよい本の紹介	全期	中央図書館 生涯学習課	継続
図書館活動の情報発信	図書館活動の情報発信では、「えなどだより」「広報えな」「ホームページ」「SNS」「コミュニティセンターだより」を利用して、本に対する興味や関心を広げ、読書のきっかけとなるような情報を提供します。また、図書館の読書に関する催しなどの情報を効果的にPRしていきます。	・えなどだより、広報えな、ホームページ、SNS、市民メールにて情報提供 ・コミュニティセンター広報誌で本の紹介、読書活動の啓発	全期	中央図書館 生涯学習課	継続
図書館ジュニアコーナーの充実	中高生を中心とした若い人に読んでもらいたい図書資料、現在の自分を考え、将来の姿を模索する助けとなるような図書資料を集め、提供します。	・えなとクラブ、こども司書講座生等によるポップ展示 ・手づくり飾り展示	小学生期 中学生期 高校生期	中央図書館	継続

■障がいのある子どもへの読書環境の整備

障がいのある子どもにとっても読書活動が大切であることは言うまでもありませんが、障がいの種類によって、読書を行うのに必要な条件はさまざまです。

図書館においては、大活字本、録音資料などの資料収集や図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービス、音声拡大読書機設置など環境整備を図ります。

特別支援学校や特別支援学級においては、障がいの種類や程度など、さまざまな要因により、読書活動の推進が困難な状況があります。障がいのある子どもに対して図書館見学の受け入れや、おはなし会を行い読書に親しむ環境をつくっていきます。

施策の方向性

- 障がいに関心した利用環境の整備に努めます。(資料の充実など)
- 障がいに対する理解を深めるための図書資料収集や啓発に努めます。
- 障がいの種類に合わせた読書活動の推進に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
障がいのある子どもの利用環境の整備	図書館は、障がいに応じた図書資料の収集、利用可能な環境の整備に努めます。また、障がいに対する理解を深めるための図書資料の収集、啓発をします。	・大型絵本、LLブック（誰もが楽しく本を読めるように工夫された、やさしい本）、大活字本、点字の本、録音資料等の資料収集。音声拡大読書装置の設置	全期	中央図書館	継続
障がいのある子どもの読書活動推進支援	障がいのある子どもに対して、図書館見学や、おはなし会等を開催します。	・図書館見学 ・おはなし会 ・図書の貸し出し支援	全期	中央図書館	継続

(2) 家庭、地域、こども園等、学校における読書環境の整備

■ 家庭が進める子どもの読書環境

近年、情報化社会の波は、テレビやゲームなど音声や画像、映像を媒体とするメディアの普及に加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などコミュニケーションの方法まで多様になってきています。アンケート調査でも、スマートフォンやタブレットなどを使用する時間は年齢が上がるにつれて多くなっていく一方で、読書をする機会は少なくなっています。保護者が読書を通じてコミュニケーションを図ることは、子どもの健全な成長に好ましい影響を与えます。

この情報の発達した社会では、日頃から、子どもが読書にふれる機会を多くするなど、家族で読書の楽しさや喜びを共有できる雰囲気づくりが必要であるとともに、子どもがいつでも本を身近に感じられるよう、家の中で手の届くところに本がある環境を積極的に作る必要があります。

施策の方向性

- 子どもと家族が読書を通じてコミュニケーションをとり、同じ時間を共有する大切さについて啓発・情報提供を行います。
- 読書活動が持つ意義や重要性について、理解を求め、関心を深めるため、さまざまな機会を捉えて普及や啓発に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
「えほんのおもいで」「こどもがすきな本リスト」の作成・配付 [再掲]	子どもの成長に合わせて、子どもに読んで欲しい本のリストを作成・配付するとともに、リストに挙げた本を図書館に準備し、いつでも読めるようにします。	・えほんのおもいで冊子配付 ・おすすめ本リスト作成 ・おすすめ本を図書館に設置、ホームページに掲載	乳幼児期 小学生期	中央図書館 幼児教育課 学校教育課	継続
恵那市読書の日の普及・啓発 [再掲]	毎月第三日曜日を「恵那市読書の日」としました。この日を中心として、子ども読書の大切さ、家族の触れ合いの大切さなど、読書活動の普及・啓発を図ります。	・POPによる本紹介 ・本のバックやポイントカードなどの貸出イベント ・コミュニティセンター展示 ・学校図書館での啓発	全期	中央図書館 生涯学習課 学校教育課	継続

■地域が進める子どもの読書環境

近年、人間関係の希薄化や子どもたちが自由に活動できる場の減少、地域での子どもの体験活動がだんだん減少する中で、図書館では先人が遺してくれた知恵の結晶である書物を提供し、地域では、地域の子の成長を見守り「子どもは地域の子」という意識のもと、地域全体で子どもを育てていこうとする行動が必要です。

地域は子どもにとって、遊んだり、暮らしたりする日常生活の場であるとともに、さまざまな活動や生活体験を通じて成長する場です。「読書で人を育てる」という地域の読書活動を推進するための環境を整備していきます。

地域の読書活動の推進を図るためのボランティア組織は、読み聞かせや、コミュニティセンター図書室の展示、ボランティアのための勉強会、地域でのイベント開催など、さまざまな読書活動に取り組んでいます。各地域の活動が全市に広がり、子どもをとりまくコミュニティの中で、本を読む環境を作っていくことが求められます。また、中

中央図書館は地域コミュニティセンター図書室との連携を含め、地域が進める子どもの読書環境の整備を支援していきます。

施策の方向性

- 中央図書館と地域コミュニティセンター図書室が相互に協力し合い、子どもの読書環境を充実していきます。
- コミュニティセンターでは、ボランティア等と協力し、図書室の企画、運営や地域読書活動などの支援に努めるとともに、地域の中で子どもが読書に親しみやすい環境の整備を進めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
中央図書館とコミュニティセンター図書室との連携	コミュニティセンターにない本を配送し、一定期間コミュニティセンターで貸し出します。また、中央図書館の本を予約し、コミュニティセンターで受け取れるよう配送することにより、中央図書館から離れた地域の子どものたちにも中央図書館の本を利用しやすくします。	・コミュニティセンターに定期的に本を配送 ・コミュニティセンター主事会での情報提供や意見交換 ・借りられる本の傾向を把握し、配送本の選定につなげる。	—	中央図書館 生涯学習課	継続
地域における読書環境の整備	地域の方々が中心となり、コミュニティセンター図書室の企画展示など行い、子どもが本に興味を持つよう読書環境の整備に努めます。	・読み聞かせ ・コミュニティセンター図書室の展示 ・勉強会 ・子ども向け図書の紹介	—	中央図書館 生涯学習課	継続

ボランティアによる読み聞かせ



■こども園等、学校が進める子どもの読書環境

こども園等においては、いろいろな絵本に出会い、本に親しむ機会を持つことが重要であることから、情報収集を行い収集する絵本の選定をしていきます。

学校図書館では、読書の楽しさや本のすばらしさ、本を使って調べ、学ぶことを教え、本の世界への案内役となる専門的な知識・技能を持った職員がいることで、より一層その機能を発揮することができます。学校図書館の運営にあたっては、校長のリーダーシップの下、司書教諭が中心となり、教員、学校図書館巡回司書が連携・協力して、それぞれの立場から機能を充実し運営していきます。

学校図書館の蔵書では、子どもに必要な図書資料を整備する上で、国が学級数に応じて定めている蔵書冊数（学校図書館図書標準）を維持するよう蔵書の整備を進めていきます。あわせて情報が古くなった図書資料について、新しい図書資料に入れ替えを進めていきます。

施策の方向性

- こども園等では、さまざまな絵本の充実に努めます。
- 学校図書館の管理・運営を行う司書教諭と、学校図書館巡回司書が連携・協力する体制を作ります。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
こども園等での図書整備	子どもへ本に親しむ機会を提供するため、さまざまな絵本の整備を充実していきます。	・絵本の選定、購入 ・図書の情報提供・助言	乳幼児期	幼児教育課 中央図書館	継続
学校図書館での図書整備	子どもに必要な図書資料の充実を図るため、学校図書館図書標準に定められた蔵書を維持するとともに、廃棄基準に照らし合わせて蔵書管理をします。館内閲覧や館外貸し出し、蔵書点検、選書作業、さまざまな本を紹介するためのブックトーク事業など、司書教諭・図書主任と学校図書館巡回司書が連携して行います。	・学校図書館図書標準に定められた蔵書数の確保 ・視聴覚資料の整備 ・蔵書点検 ・蔵書管理	小学生期 中学生期	学校教育課 中央図書館	継続

■ 学校と中央図書館の連携

国の第五次基本計画では、読書を通じて自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探求心や真理を求める態度が培われることと、読むこと自体の楽しさ、それによる充実感、満足感を得ることが重要としています。

読書調査で、本を読むときに約4割の子どもが学校図書館で借りています。利用回数では週に2～3回以上と答えた子どもは小学生で56%、中学生で15%と読書量に差はあるものの、身近な存在である学校が子どもの読書活動を支援していることがわかります。そのため学校にない本や一斉読書、授業に必要な本など学校の求めに応じて中央図書館からの配送を引き続いて行います。

施策の方向性

- 中央図書館からの本等の配送サービスなど、子どもにとって利用しやすい読書環境の整備に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
学校への配送サービス	学校にない本や一斉読書、授業に必要な本等を中央図書館から配送し、一定期間貸し出します。	・小中学校へ本の配送 ・各学校で、年間計画に配送サービスを位置づける。	小学生期 中学生期	学校教育課 中央図書館	継続

3. 子どもの読書活動を推進するための人材育成

子どもの読書活動に全市的に取り組むためには、図書館をはじめとする行政諸機関が連携していくことも大切ですが、市民の協力もまた欠くことができないものです。協働のまちづくりを進める当市においては、子どもの読書活動の推進に積極的に参加する人材を育てることは重要なポイントです。

また、学校図書館の運営に関しても教職員の人材を育成していくことが大切です。

(1) 市民ボランティアの育成

■ 市民ボランティアの育成

子どもの読書活動を推進していく上で、ボランティアの活動は重要な役割を果たしています。中央図書館では、さまざまなイベントの企画立案から実施、おはなし会、図書の整理、環境美化など、約 60 名、4 団体のボランティアが図書館サポーターとして活動しています。また、各地域に子どもの読書活動にかかわるグループがあります。こうした活動の輪を地域に広げていくために、そこに参加する人材を育成していくことが重要です。

P T A での読み聞かせ活動など子どもの活動に関わっていた人や、知識や経験の豊富な高齢者など地域には多くの人材がいます。そうした人材を生かし、地域の読書活動を推進していくことが望まれます。

子どもたちに本の魅力を十分に伝えることができるよう、新たなボランティアを養成するとともに、講習会や学習会を通じて活動に参加する人のレベルアップを進めていきます。

施策の方向性

- 子どもの読書活動を支えるため、ボランティアの資質向上や、新たなボランティアの養成に努めます。
- 地域で、子どもに関わっている人、あるいは関わっていた人などに呼びかけ、ボランティア、サポーターの輪を広げ、子どもの読書活動の推進に繋がります。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
読書活動を推進する人材の育成	子どもたちへ読み聞かせ、ブックスタート、読書推進のためのイベントの企画・運営、障がい者のための読書支援、図書館の環境整備など、読書活動を推進していくボランティアを育成していきます。	・読み聞かせサポーター養成講座 ・ブックスタートサポーター研修 ・読書活動の支援	—	中央図書館	継続
地域活動団体・図書館サポーターへの支援	中央図書館・コミュニティセンターは、中央図書館サポーター活動団体や地域で活動する団体へ、活動に係る支援を行います。	・図書館サポーターとの情報交換とイベント支援 ・司書のコミュニティセンター巡回時による支援 ・地域活動団体との情報交流と、地域行事との連携支援	—	中央図書館・生涯学習課	継続

(2) 図書館における人材育成

■ 学校図書館・図書館運営のための研修

子どもの読書活動を推進する上で、学校と中央図書館とはともに中核となり、緊密に連携をとっていく必要があります。学校では、教職員全体で学校図書館の運営や活用にかかわり、子どもの読書活動を進めていくことが大切です。その中で、教職員は中央図書館で行う学校への読書活動支援事業を把握して、学校巡回司書によるブックトークや、図書の学校への配送、中央図書館施設見学、資料の提供依頼など有効に活用していきます。

また、学校図書館巡回司書は、図書資料の管理、閲覧や貸出、ブックトークなど、学校での子どもの読書活動を推進していくために重要な人材となります。学校において教職員の個々の力量を上げるため、学校図書館の活用の仕方や中央図書館の利用と司書との連携を図り、各学校間での情報を交換するなど研修を実施し職員の意識の向上を図ります。

中央図書館は、子どもの読書活動を推進する上での中核施設であり、子どもたちがたくさん本と出会い、読書の楽しみを発見できる場所でもあります。また、必要な情報・資料の集積施設でもあります。

そこに働く司書は、本や読書、子どもについて深い理解を持ち、読み聞かせなどさまざまなサービスを提供する上で確かな技量を持つことが求められます。

このため、さまざまな機会を捉えて、図書館司書としての資質の向上に努めます。

施策の方向性

- 教職員の研修では、学校図書館の積極的活用や、中央図書館利用研修などを実施し、中央図書館と学校との円滑な連携を図ります。
- 子どもの読書活動の推進に役立つ技術や資質の向上に努めます。
- 職員の知識やノウハウの共有に努めます。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
教職員のための図書館利用研修の実施	図書館についての講座を開き、教職員の図書館に対する理解を深めます。	・学校からの要望を聞き年間計画を立て実施	—	学校教育課	継続
各種研修会への参加	国、県、各種団体の主催する研修会へ参加し、技術や資質の向上を図ります。	・国、県、各種団体研修会	—	中央図書館	継続
館内研修の実施	館内研修により、職員間の知識や技術の向上を図り、サービスの向上につなげます	・館内研修	—	中央図書館	継続

■子ども同士で読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進する上で、子どもが主体的に取り組む図書委員、子ども司書等の活動を促すことも重要とされています。中央図書館では多くの子どもが本に関心を持ち、子ども同士で読書を広めていく活動のリーダーとなる人材の育成を目指し、子ども司書講座の開講、図書館イベントでのボランティア、図書館クラブの開催等を行っています。

施策の方向性

- 子どもの自主的、自発的な読書活動を支援していきます。
- 子ども同士で読書を広めていくリーダーを育成します。

主な取り組み事業

事業名	事業内容	取組事項	対象	担当部署	
子ども司書講座	小学生高学年を対象に図書館の仕事を学ぶ場をつくり、学校図書館で読書活動を推進する人材を育成していきます。	・講座の開催。 ・講座修了生のイベントボランティア	小学生期	中央図書館	継続
図書館クラブ （えなとクラブ）の活動支援	小学校高学年から高校生を中心とした自主的な活動を行うクラブを支援します。中央図書館で、おすすめ本の紹介や、イベントスタッフなどとして活動し、同世代の交流促進や子ども同士で読書を薦めていく活動を行います。	・おすすめ本の紹介 ・ジュニアコーナー展示 ・イベント参加	小学生期 中学生期 高校生期	中央図書館	継続
ボランティア、職場体験の受入	中央図書館での活動により、学校図書館や地域、子ども同士での読書活動に生かす体験を提供します。	・職場体験 ・イベントスタッフ体験	中学生期 高校生期	中央図書館	継続

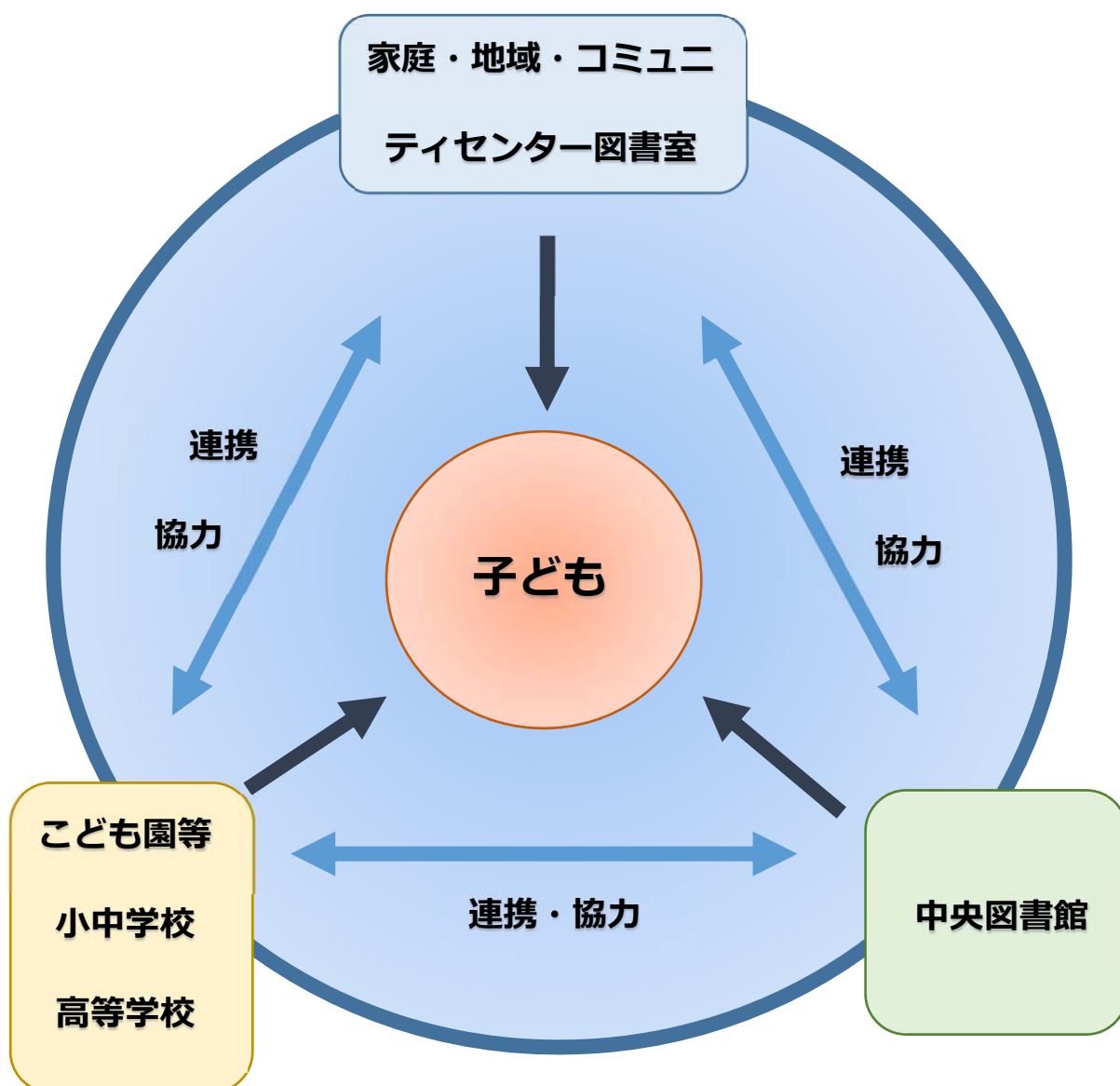
子ども司書講座



第5章 計画の推進に向けて

子どもの読書活動を推進するためには、子どもたちの読書環境をそれぞれの立場から応援し、支えていく体制が必要です。家庭での役割、学校やこども園、幼稚園、保育園、コミュニティセンター、図書館等さまざまな立場で、それぞれが持つ特性や資源を生かして、ともに連携・協力して、子どもの読書活動を推進するための体制づくりを、確立していきます。

本計画の推進にあたっては、中央図書館が事務局となり年度毎の進捗状況の管理を行い、図書館協議会において検証を行うよう努めていきます。



第6章 参考資料

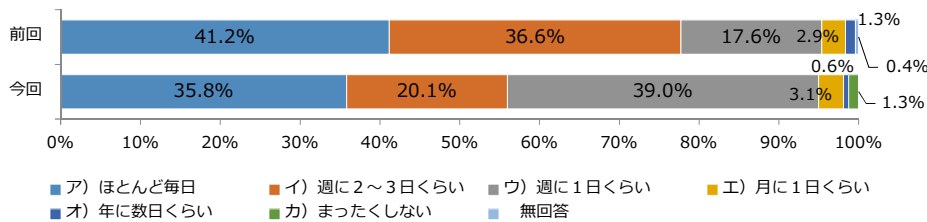
(1) 恵那市読書調査(3歳児)

アンケート調査

依頼	270
回答	159
回答率	59%

1. お子さんに絵本や物語の読み聞かせをしていますか？

	今回		前回	
ア) ほとんど毎日	57	35.8%	98	41.2%
イ) 週に2～3日くらい	32	20.1%	87	36.6%
ウ) 週に1日くらい	62	39.0%	42	17.6%
エ) 月に1日くらい	5	3.1%	7	2.9%
オ) 年に数日くらい	1	0.6%	3	1.3%
カ) まったくしない	2	1.3%	0	0.0%
無回答			1	0.4%



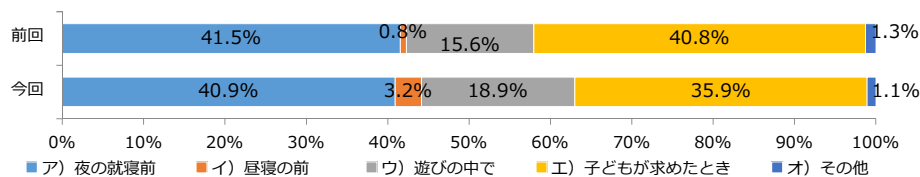
ほとんどの家庭において、毎週読み聞かせを行っています。「ほとんど毎日」「週に2～3日くらい」を合わせると約56%で、前回調査の約78%と比較して減少し、週に1日の割合が増えています。家庭での読み聞かせの機会が減少していると考えられます。

2. どんな時に読み聞かせをしていますか？(複数回答可)

	今回		前回	
ア) 夜の就寝前	115	40.9%	162	41.5%
イ) 昼寝の前	9	3.2%	3	0.8%
ウ) 遊びの中で	53	18.9%	61	15.6%
エ) 子どもが求めたとき	101	35.9%	159	40.8%
オ) その他	3	1.1%	5	1.3%

【その他意見】

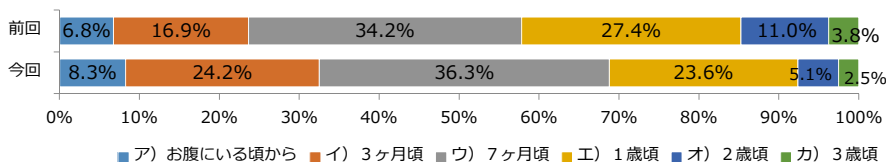
こども園から絵本を持ち帰った時
実際に虫を見つけたりした時に、
それが載っている本を読んでいる。



「夜の就寝前」が4割と習慣化されている家庭も多くみられます。また、「子どもが求めたとき」「遊びの中で」をあわせて5割を超え、親子の触れ合いの中で、絵本の楽しさを共有できていると考えられます。

3. お子さんにいつ頃から読み聞かせをはじめましたか？

	今回		前回	
ア) お腹にいる頃から	13	8.3%	16	6.8%
イ) 3ヶ月頃	38	24.2%	40	16.9%
ウ) 7ヶ月頃	57	36.3%	81	34.2%
エ) 1歳頃	37	23.6%	65	27.4%
オ) 2歳頃	8	5.1%	26	11.0%
カ) 3歳頃	4	2.5%	9	3.8%



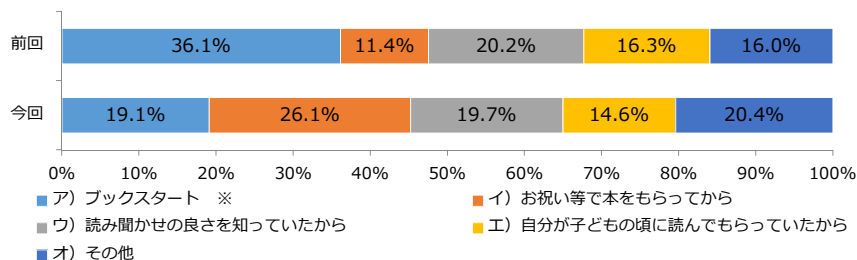
「7ヶ月頃」「1歳頃」に読み聞かせをはじめめる家庭が多いことから、ブックスタート事業が影響していると考えられます。また、「お腹にいる頃から」「3ヶ月頃」からはじめていた家庭が、前回調査の24%であったのに対し、今回調査では32%と増加しており、早期から読み聞かせを始める家庭が増加しています。

4. 読み聞かせをはじめたきっかけは何ですか？

- ア) ブックスタート ※
 イ) お祝い等で本をもらってから
 ウ) 読み聞かせの良さを知っていたから
 エ) 自分が子どもの頃に読んでもらっていたから
 オ) その他

今回		前回	
30	19.1%	95	36.1%
41	26.1%	30	11.4%
31	19.7%	53	20.2%
23	14.6%	43	16.3%
32	20.4%	42	16.0%

※ ブックスタート：恵那市では7か月児教室の時、読み聞かせの良さを伝え、絵本を1冊プレゼントしています。



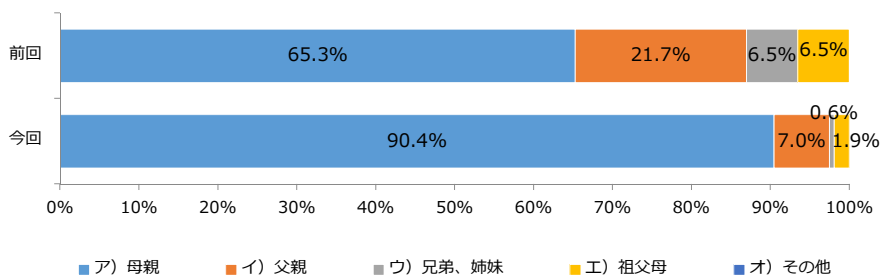
「お祝い等で本をもらってから」「読み聞かせの良さを知っていたから」が、「ブックスタート」を上回り、読み聞かせの大切さを理解し、早期に取り組んでいると考えられます。

【その他意見】

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 上の子と一緒に(9) | 妊娠中も上の子に毎日読んでいたので。 |
| こども園で本を借りてくるから(2) | 本に興味を持ち始めてから |
| 自分が読書好きだから(2) | 本を読むことが好きになってほしかったから |
| 読んであげたいと思ったから | 知り合いにお下がりの絵本をもらったから |
| 卒乳して寝かしつけのため | 保育士をしていて、小さい頃から読むといいことを知っていたから |

5. 読み聞かせは誰がしていますか。

	今回		前回	
ア) 母親	142	90.4%	220	65.3%
イ) 父親	11	7.0%	73	21.7%
ウ) 兄弟、姉妹	1	0.6%	22	6.5%
エ) 祖父母	3	1.9%	22	6.5%
オ) その他	0	0.0%	0	0.0%



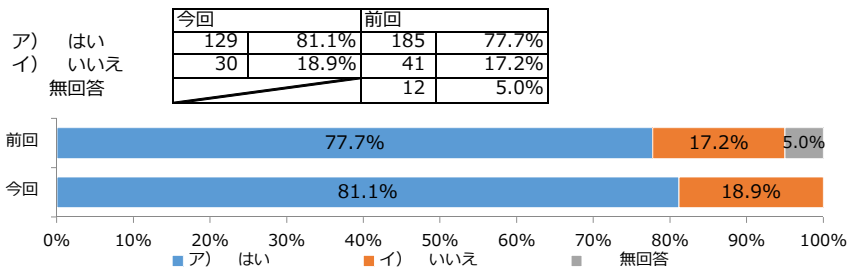
主に母親が行っています。前回調査では、母親65.3%、父親21.7%、兄弟姉妹6.5%、祖父母6.5%となっており、母親に集中していることが分かります。今後は母親以外の参加が望まれます。

6. 設問1 で力「まったくしない」と答えた方に質問します。読み聞かせをしない理由を教えてください。(おもなものを1つに○をつけてください)

- ア) 時間に余裕が無いため
 イ) 本がないため
 ウ) 育児に必要なと思うから
 エ) 読み聞かせに自信が無いため
 オ) その他

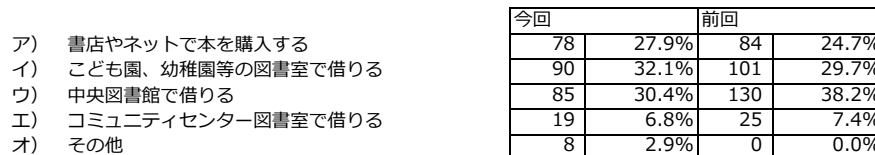
0	0.0%
1	50.0%
0	0.0%
0	0.0%
1	50.0%

7. あなたは読み聞かせは好きですか。



前回調査では、「はい」が77.7%、今回の調査では81.1%と、読み聞かせが好きな割合が増加しています。今後は、好きでないと回答した方への方策が必要であると考えます。

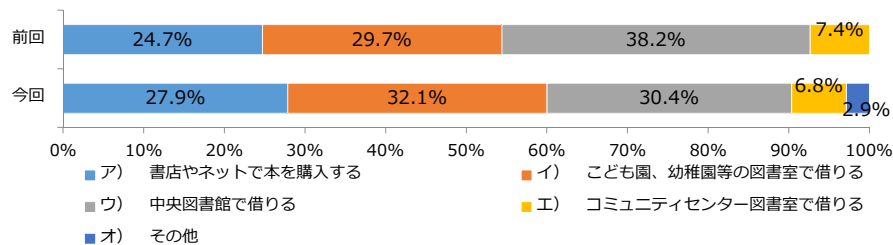
8. あなたは読ませたい本を選ぶとき、どんな方法で本を用意しますか。



【その他意見】

アプリの絵本読み放題に登録している 家にあるもの プレゼントでもらう

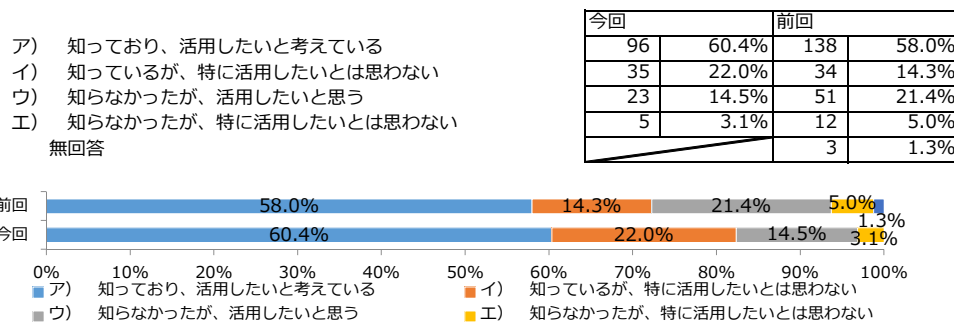
祖父母が贈ってくれる、自宅の自分が読んだ絵本



「こども園、幼稚園等の図書室で借りる」「中央図書館で借りる」「コミュニティセンター図書室で借りる」を合わせて、借りる割合が約7割となっています。これらの場所での絵本の需要があります。

9. 読書手帳「えほんのおもいで※」は「ブックスタート」に続く取り組みとして、読んだ本のタイトル等を50冊分記録すると絵本を1冊プレゼントしていますが、ご存知ですか？
(あてはまるものに1つ○をつけてください)

※「えほんのおもいで」は、こども園等を通じ3歳児に配布しています。



「知っており、活用したいと考えている」「知らなかったが、活用したい」をあわせると、約75%あり、読書記録を残そうと考える家庭が多いことが分かります。また、「活用したいと思わない」家庭も2割程あり、取り組み内容の検討が必要です。

【自由意見】

読み聞かせを行うにあたり、大切にしていることはありますか。

子どもが楽しむ読み方(楽しい場面なら楽しく)や、キャラになりきって世界観に入りやすいように読んでいる。
子どもが静かに聞いている時は読みきかせ、子どもが「これなにー？」とか質問してきた時はそれに答えるなど、子どもに寄り添った読みきかせをすることを大切にしています。
時々子供に話し掛けながら読む
子供にできるだけわかりやすく、読むように指を刺しながらなどしてます
ふれあい
子どもが読みたい本を読む。子どもがページをめくるのでペースは子ども次第。 本の内容は子どもがあまり興味がないため、効果音や言葉のリズム、絵見て何か当てるクイズ等楽しんで絵本と触れ合えるよう意識している。
子供の反応を見ながらゆっくり読む
子供が見やすいように本を持つようにしている。
気持ちを込めて読む
子供のリアクションに反応すること
こどもがどんな表情をしているかを見ながら読んでいる。
読みたい本を読む
感情を込めてゆっくりと読む！
お互いに負担にならない範囲でやる。絶対に毎日読み聞かせすると決めているわけではなく、子どもが読んでほしい時に読むし、子どもが自分で読みたいときは手を出さない。子どもが何度も読んでほしいときにはなるべく答えるが、私も疲れている時もあるので、そう言う時はある程度のところで終わったりもする。親が読ませたい本を無理に勧めない。
子どものペースに合わせてゆっくり読む。理解できてるか、表情をみたりする。
絵を指差している。ここを読んでいるよ、この子の事だよとわかるように。
子供が読んでほしいと思う本を読むようにしている。
子供が楽しそうに聞いているよう、読み手が感情込めて読んでいる
子供の意識がちゃんと向くように話し方を気をつける
ゆったりとした気持ちで子どもが絵本の世界に入りこめるようオーバーに抑揚をつけないようにしている。子どもと一緒に楽しんで読み聞かせをするようにしている。
自分も子どもと一緒に物語を楽しむ。
子どもの気になるところは話をしながら時間をとって読むこと
子どもが読んでほしいという本を読んでいます。同じ本を何回も読んでほしいと言い、親としては疲れちゃうときもありますが、その要望に応えるようにしています。
幅広くたくさん絵本を読ませること。親も絵本を楽しむこと。古くても良い絵本が沢山あるので新旧にこだわらずある程度汚れた絵本でも読んでいます 笑
どうだったか子供に感想を聞く
子どもと読みたい本と一緒に選んで読むのも良いが、子の成長の過程で、してほしいなと思うようなテーマの本を親が選んで読み聞かせる日も作るようにしている
もう一回に答える。なるべく子供が飽きるまで付き合いたいけど、実際はあと一回ねとこっちが終わりを決めてしまう
子どもの表情を見ながら、読むペースを変えたり、登場人物や動物によって声色を変えて読んだり、抑揚を付けて読むようにしています。
子供の反応を見ながら行っています。
内容によって、楽しい時や、悲しい時はそのようにトーンを変えたり、途中で子どもが何かお話ししてきたら、それに合わせたり、共感したり、疑問に答えてから先に進んでいく読み方をしています。

色や形、文字が大好きなので読み聞かせた後は、一人でじっくり本を観察しています。3冊程借りてきていつも家に置いてあります。
子どもが興味を持ち楽しめること
子供の興味があるものから本を読んで好きになってもらうように本人に何借りたいと聞いたりして借りる。
本人の興味や本を見たいって気持ちを第一に優先して、読み聞かせている。
子どもが声から想像しやすいように、声色を変えたり、声の大きさを変えたりする。寝る前にはあまり興奮しないように、落ち着いて読む。
感情を込めて読む。子供に問いかけるように読む。
語感で面白く感じ子どもが笑うところは繰り返してみたり、子どもが怖がったりおどろいたり悲しんだるときは一緒に同じ気持ちになる。子どもの本から感じる気持ちを大切に。自分も同じように素直に感じる
図書館でまず大量に、ランダムに本を借ります。一度に20冊くらい。それでプチ図書館を家に設置して、こどもがいつも新しい本に触れて楽しく選ぶようにしています。
読みたいと言ったときは8割くらいの確率で読みます。全然文字は読めませんが絵を楽しむ、ストーリーの楽しさはあるようで絵本だいすきになりました。
同じものでも良いし、一冊でもいいから、毎日一緒に絵本を読む事。時間に追われて読むのではなく、その子とゆったり過ごせる時間にする事。
長い文章はあまり聞いてくれないので、長文の時は短く簡潔にして読んでいます。
読書が好きになってほしい為
全部聞いてもらえなくても、絵を見て問いかけながら楽しく読んでいる。
読む速さはゆっくりで、子供が気になったことがあり質問してきたりしたら、じっくり聞いてあげる事を大切にしている。
子供の読んで欲しいのを、気が済むまで読んでみかせる
子供のペースで読む事
毎日続けること、この本を読んでほしいと希望があれば必ずその日のうちに読み聞かせをしている
主人公になりきって読んでいる。

感情をいれて読む キャラクターを作る
できるだけ子供が読んで欲しい時に要望にこたえること。気持ちを込めて、一緒にたのしむこと。
落ち着いて話を読める、聞けることにする事。
子どものペースに合わせる
テンポ
特に意識していることはありません。
子どもの分からないことは補足する。ゆっくり落ち着いて聞ける環境で読む。
適当に読まず、しっかり想いを込めて読む
子どもが興味ある絵本かどうか。子どもが嫌がっていないか。(ほとんど読み聞かせしないのでわかりません。)

読み聞かせをしている時の子どもさんの様子はいかがですか。

笑える場面はグラグラ笑ったり、興味のある場面は質問が飛んできたり何でこうなるの？と聞かれたらお話ししながら読んでいます。
じーっと集中して見たり、たくさん質問攻めしてきたり、読む本によって聞き方が全然違いますが、お気に入りの本は何度も読んでほしいと言います。
読んでいる途中でめくったりするけど基本は大人しく見ている
たまに母の顔を見ながらページをペラペラめくっている。気になる言葉があると、そのフレーズを繰り返し言う。
本を一生懸命みてくれている
うちの子は、じっと聞いてくれることの方が少ないのでなんとも言えないですが、気分によって笑ったりじーっと見ていたり。
初めての本は静かに聴き 内容を知っている本はあれこれ口を出しながら聞いている
うろうろして、本を選んでいる
色々と興味を持ち、思った事をその都度教えてくれる
絵を見て気持ちを考えたり、次の展開を考えたり、登場人物になりきったり、いつも読み聞かせを楽しんでいます。
食い入るように見ている。
最初は静かに聞いている。何度も読んでいて知っている内容だと、指を刺したり、内容について話しながら見ることもある。
真剣に見ていたり、よく反応してくれる時もある。
絵本に関する話をしたり、興味が無さそうにしたりと様々。
集中して聞いている、一緒に動いたりして楽しそうにしています
読んでいる途中でちょっと待って！と気になるところで止めてきます
本が大好きなので、喜んで聞いている。
絵本の世界観に入り込んですごく楽しんでいる。絵本に出てくる物の名前が分からないと「これは何？」と必ず聞いてきて絵本から色々な知識を身につけているように感じる。
真剣に聞き入っていたり、自分の意見を述べてきたり、楽しそう。
横に座ったり、一緒に寝転んだりして聞いている。ゴソゴソ別のことをしているときもありますが、やめると「やめなさい！」と言うので耳では聞いているみたいです。
就寝時に読むので、寝転がりながら本を見て、時々出てくるものの名前を言う。
集中していたり、しななかったり、会話が弾んだり、飽きたり、色々です。
興味を持っている。知っている本はセリフを言ったりしている。
疑問に思った事は質問して来たり、気に入った所は何度もリクエストしてきます。言葉の意味が分からない時は、どういう事が聞かれます。
真剣に聞いてくれます。楽しい時は笑うし、その時の自分の気持ち(可愛いねや、困っちゃうねや、怖いね！どうなっちゃうの？など)を素直に教えてくれます。
楽しい場面では大笑いしたり、〇〇しちゃったねと反応があります。自分でページをめくりたがりです。
こども園に通うようになってから、絵本を読む機会が増え、同じ本を何度も読んだり、自分で覚えて読んだり、楽しんでいる。
ワクワクしたり、文章をまるっと覚えたり、世界に入り込んでいる。楽しそう
グラグラ笑ったり絵を指さしてきつたことを指摘しています。
キャッキヤツしてあれこれ言いながら聞いている
『きれいだねえ』『ここにいるよ』など感想や絵本からの質問に答えたりしながら、集中して読んでいる。
あまり集中して聞くことはないのですが、気に入ったお話や、シーンは繰り返し読んでほしいと言います。
絵本をよく見ているし、楽しそうにしている
好きな本は集中して聞いてくれるが、長い話は飽きてしまうことがある。
自分の好きなシーンまですぐにページをめくろうとするほど楽しみにしてくれている。
静かに聞いている、色々気になることがあると喋りながら聞いている。
興味が深い時は、絵を指さしながらその名前を言ったり、セリフを言ったりします。
読んでという時は真剣に聞いてくれます
最初から最後まで楽しそうにしている 集中して聞き、疑問に思ったことは何故なのかと聞いたり、考えている様子がある
じっと聞いている。感想を挟んでくる。
何これ？など、興味をもってくれている
聞き入って、本の絵を指さして〇〇ある～とかこれ何？と言うこともあるし、遊び始めることもある。
いい子で聞き入ってくれる 本を毎日読むことによってひらがなが早く覚えることができています
毎晩1冊読む事が習慣化しており、わくわくしながら好きな本を1冊選んでベッドへ向かっています。
初めての本は集中して聞いていますが、読み慣れている本は流し聞きしている雰囲気です、、、
読んでという割に、集中力に欠ける 最初は楽しんでいる。
興味があつてのめり込む時と、他のことが気になって(内容が興味なかったりもする)全く聞いてない時とある。
好きな本を持ってくるので二コニコして聞いている。
絵本を見て、自分はどれがいいかなど楽しそうにお話をしたり、これは何？と、聞いてきたりする。
集中して聞いている、一緒に読んだりしている
真剣に静かに聞いている、気になる所は質問してきたりしています。
良く聞いて、色々話してくれる
好きな本は笑顔を見せながら聞いているが、興味のない本は全然聞いてない

意見をお聞かせ下さい。

お父さんが絵本の読み聞かせが大好きで、初めての出産前にもお腹の子に児童書を読んでくれたりしました。 上の小中学生の子ども達は、お陰で児童書や小説が大好きでいつでもどこでも本を読んでいます。 絵本は心を育て、想像する力、先を読む力、感情等が育つと私たち夫婦はずっと思っています。 学校では国語の基本的な読み解く力がついてきたり読書感想文が得意になっていきました。無駄になることはなにとつないと思います。 中央図書館にはいつもたくさんの本が入荷され、家族で楽しみにしています。館内の雰囲気も好きです。これからもいっぱい利用したいので宜しくお願い致します。
中央図書館をよく利用させていただいています。たくさん児童書があり、悩みながら自分で決めています。ノンタンが好きで、内容を覚えて自分で読んだりしています。
意識しないと読み聞かせの時間が作れないので、もう少し時間を取りたい
2歳の子がいますが、本をやぶく心配があり図書館などで本を借りたりするのができません。恵那市在住の子は一年に一冊もらえるような制度があると嬉しいです
恵那市中央図書館の絵本の種類がとても豊富で、選びやすく、いつも活用させていただいています。1人目が生まれた頃から読み聞かせをしています、中央図書館のおかげで様々な本に触れることが出来ています。ありがとうございます。
本が大好きなのですが、恵那市の図書館の外にも「今月のオススメ絵本」の紹介があると嬉しいなと思います！
読み聞かせは幼児にとっても大切だと自分自身考えているので、恵那市によるブックスタートやえほんの思い出など小さい頃から絵本を読むきっかけとなる取り組みが行われていてありがたい。 我が家は3人目で上の子たちが中心で末っ子にはなかなか読み聞かせできてなかったが、こども園で週に3回の絵本貸し出しをきっかけに絵本が大好きになり毎晩読み聞かせを楽しむようになった。 これからも子どもと一緒に絵本を楽しんでいきたい。
図書館とても活用しています！ありがとうございます。たくさん児童書があるので毎回迷いますが、その迷う時間も楽しみのひとつです。こどもが本のある生活が当たり前に育つように、これからもいろいろな場面で活用させていただきます。
恵那市の図書館は本当に素晴らしいです。冊数も制限がないので毎回子供が目留めた本を30冊くらい借りてきます。管理も綺麗で綺麗な本が多いです。幼児向けの絵本の種類がもう少し増えると嬉しいです。恵那市はこの図書館だけでも住む価値があると心底思います。設立者の伊藤さんにも常に感謝しています。
本当はもっとしてあげたいけど、他の子供も読んで読んでになるので、なかなか全員満足するまで読みまくる時間がない。
時間がなくて読めない時もありますが、なるべく寝る前は読んだり、子どもが読んできたら読んでは、必ず読んでいます。今後も、読んできたら読んできてくれるなら、どんなに大きくなって読んであげたいなと思います。
絵本を通してコミュニケーションがとれてありがたいです。自分の子どもの頃を思い出しながら読んでます
子供の為になる本が欲しい。歯を磨きたくて本やトイレに行きたくて本、夜寝たくて本、お風呂に入りたくて本とか子どもにいい方に影響力があるから。
共働きで子どもと過ごす時間がなかなか取れない中、読み聞かせは触れ合える大切な時間。きちんと読めないことや、喧嘩しちゃうこともあるけどずっと続けていきたいです。
コミュニティで中央図書館の本が借りられるのは、いつも本当にありがたいです。季節に合わせた本を運んでくださるのも嬉しいです。ちょっと遠いですが、時間がある時、新刊が気になるのでもっと中央図書館に足を運びたいと思います。 長男が50冊読んで、ガラガラドンを買いたい！と目標にしています。楽しみながら本を読める企画、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
中央図書館は子ども達もお気に入りです。2週に1度は借りに行きます 市の絵本の取り組みは大変ありがたいです 昔からあるロングセラーの絵本は数冊ずつあって借りやすいのですが、最近の人気絵本（だるまさんシリーズやパンどろぼう等）はいつも借りられていて、予約も多く中々借りる事ができません 予約数の多い本は複数あると嬉しいです
いろんな種類の本に触れてほしいと思うのですが、同じ本を何回も読んでほしいと言われるのですが、それでも読み聞かせは子供が楽しんでくれたらそれでいいですか？絵本から学べることもあるので、たくさん本を読んで、「こんな時は、こんな気持ちになるんだな。」などいろんな事を感じて学んでほしいです。
図書館で本を借りたいが、恵那市まで行かないと本数が少ないのでネットで取り寄せて明智の図書館で受取れ返却できたらいいなと思います。恵那の図書館までわざわざ借りに行く時間がない。
絵本、読み聞かせ大好きです！ なるべく対象年齢の本を探すのですが、難しい、、これからもたくさん本を読んであげたいです！
絵本を通して、自分なりに考えたりしてくれる姿があり、子供なりの成長がみれて嬉しいです。こども園でも絵本が好きで読む様子があると、先生に言われます。
読み聞かせることで、嬉しい子やそこから学びがある子もいると思うが、うちの子には家でやるのには向いていなさそう。園などで経験するのはまだできるが。読み聞かせは大切だと思うが、それ以外にもコミュニケーションを取る方法はあると思う。子育て支援などの話を聞くときに、すごく読み聞かせは素晴らしいと言われることには違和感を感じる。本当に大切なのは、それぞれの子どもにあった関わりをすることなのではないか…。私自身は読み聞かせとか、寝る前に本を読むとか、親からしてもらって、子どもにもしたい、しなくちゃと思っていたが、子ども自身はそれを求めているし、それなのにやる余裕はなかったです。

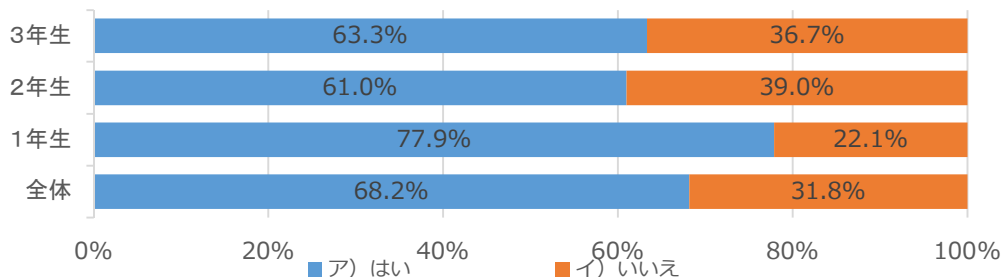
(2) 恵那市読書調査（小学校1年生～小学校3年生）

1. 学年

	小学1年	小学2年	小学3年	計
依頼	307	343	349	999
回答	104	100	60	264
回答率	33.9%	29.2%	17.2%	26.4%

2. お子さんは、読書が好きですか。

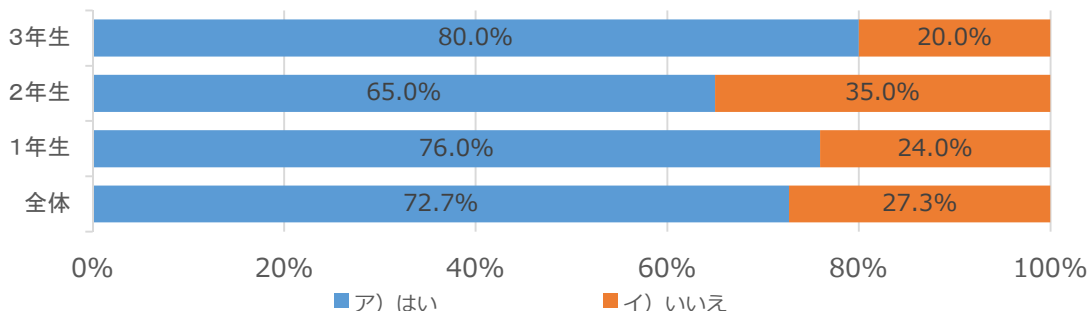
	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) はい	81	77.9%	61	61.0%	38	63.3%	180	68.2%
イ) いいえ	23	22.1%	39	39.0%	22	36.7%	84	31.8%



読書が好きな割合は、全体で68.2%となっています。小学1年では77.9%、小学2、3年では6割強と減少しています。

3. お子さんと、本について話すことがありますか。

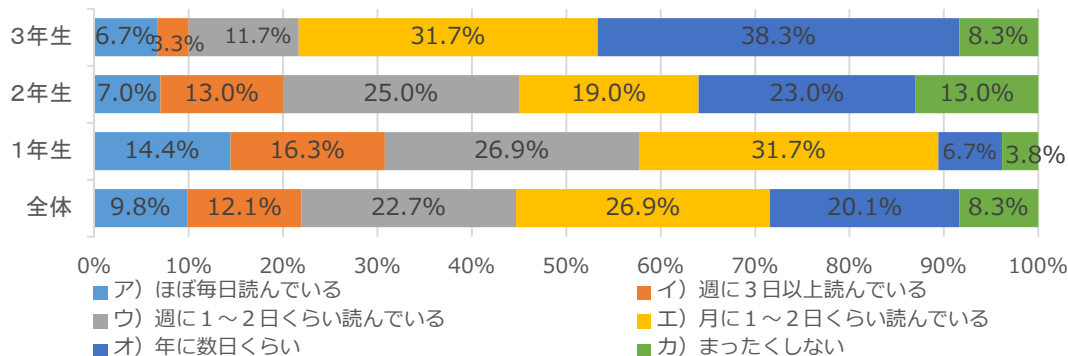
	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) はい	79	76.0%	65	65.0%	48	80.0%	192	72.7%
イ) いいえ	25	24.0%	35	35.0%	12	20.0%	72	27.3%



全体で7割を超える保護者が、子どもと本について話をしています。

4. お子さんに絵本や物語の読み聞かせをしていますか？

	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) ほぼ毎日読んでいる	15	14.4%	7	7.0%	4	6.7%	26	9.8%
イ) 週に3日以上読んでいる	17	16.3%	13	13.0%	2	3.3%	32	12.1%
ウ) 週に1～2日くらい読んでいる	28	26.9%	25	25.0%	7	11.7%	60	22.7%
エ) 月に1～2日くらい読んでいる	33	31.7%	19	19.0%	19	31.7%	71	26.9%
オ) 年に数日くらい	7	6.7%	23	23.0%	23	38.3%	53	20.1%
カ) まったくしない	4	3.8%	13	13.0%	5	8.3%	22	8.3%

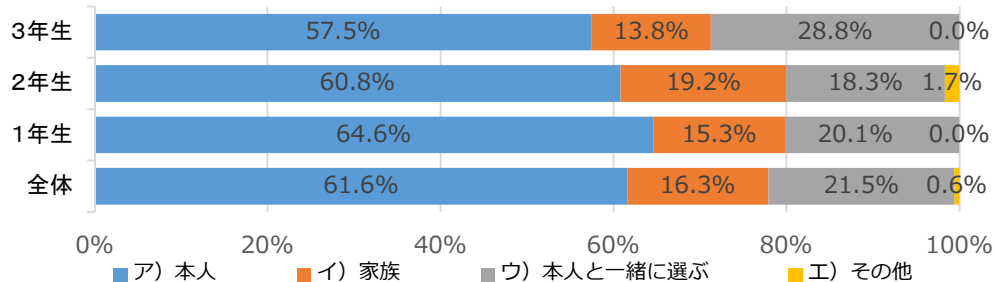


週に1日以上行っている割合が、全体で44.6%となっています。学年が上がるにつれ読み聞かせをする割合は減少しています。1年生で「まったくしない」「年に数日」を合わせて約10%あり、学年が上がるにつれ割合が増加しています。

5. 誰が読む本を選んでいきますか。(複数回答可)

	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) 本人	93	64.6%	73	60.8%	46	57.5%	212	61.6%
イ) 家族	22	15.3%	23	19.2%	11	13.8%	56	16.3%
ウ) 本人と一緒に選ぶ	29	20.1%	22	18.3%	23	28.8%	74	21.5%
エ) その他	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	2	0.6%

【その他】 ・妹 ・弟



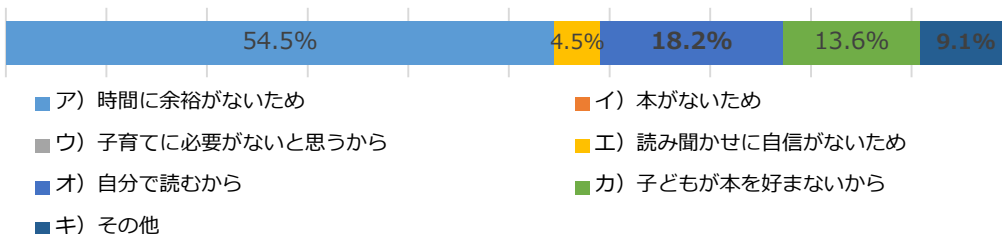
全体で7割以上が本人、又は本人と一緒に選んでいます。

6. 設問4で力)「まったくしない」と答えた方に質問します。読み聞かせをしない理由を教えてください。

ア) 時間に余裕がないため	12	54.5%
イ) 本がないため	0	0.0%
ウ) 子育てに必要なと思うから	0	0.0%
エ) 読み聞かせに自信がないため	1	4.5%
オ) 自分で読むから	4	18.2%
カ) 子どもが本を好まないから	3	13.6%
キ) その他	2	9.1%

【その他】

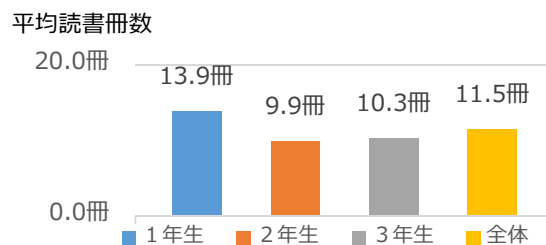
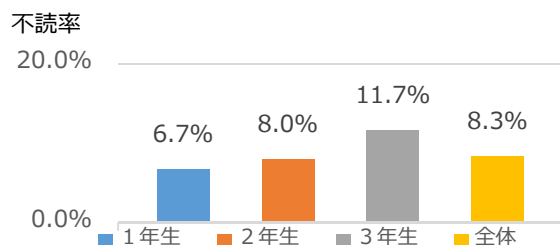
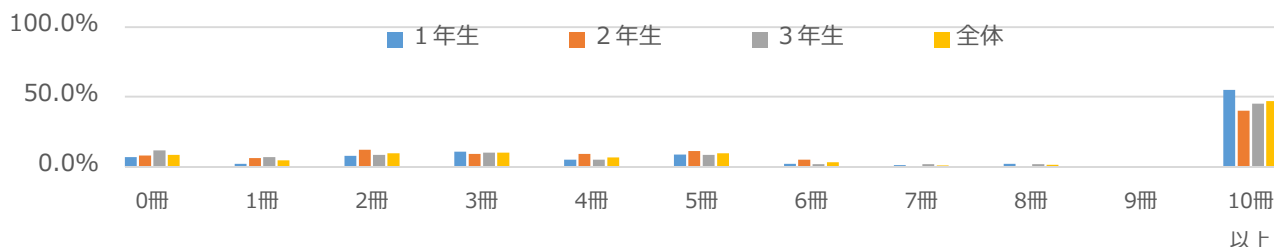
- ・話をしながら、いつも寝てしまうため。
- ・理由なし



「時間に余裕がない」が約54%、次いで「自分で読むから」が約18%となっています。

7. お子さんは、先月1ヶ月間に本(電子書籍を含む)を何冊ぐらい読みましたか。また、読み聞かせをしましたか。(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌を除く。学校図書館にある学習マンガは、含める。)1冊も読まなかった方は0と書いてください。

		0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上
1年生	人数	7	2	8	11	5	9	2	1	2	0	57
	書籍	0	2	16	33	20	45	12	7	16	0	1295
	割合	6.7%	1.9%	7.7%	10.6%	4.8%	8.7%	1.9%	1.0%	1.9%	0.0%	54.8%
2年生	人数	8	6	12	9	9	11	5	0	0	0	40
	書籍	0	6	24	27	36	55	30	0	0	0	809
	割合	8.0%	6.0%	12.0%	9.0%	9.0%	11.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
3年生	人数	7	4	5	6	3	5	1	1	1	0	27
	書籍	0	4	10	18	12	25	6	7	8	0	525
	割合	11.7%	6.7%	8.3%	10.0%	5.0%	8.3%	1.7%	1.7%	1.7%	0.0%	45.0%
全体	人数	22	12	25	26	17	25	8	2	3	0	124
	書籍	0	12	50	78	68	125	48	14	24	0	2629
	割合	8.3%	4.5%	9.5%	9.8%	6.4%	9.5%	3.0%	0.8%	1.1%	0.0%	47.0%

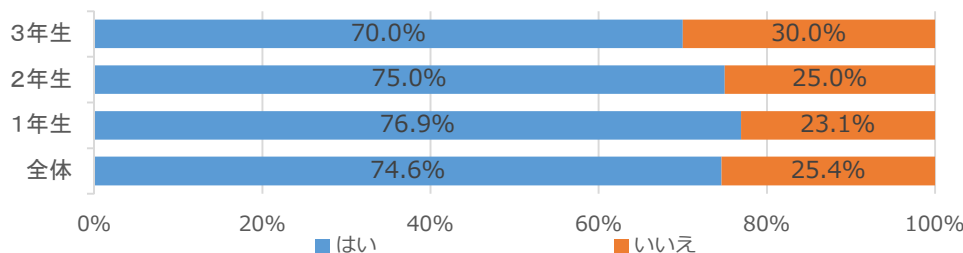


調査対象期間が8月だったこともあり、読書冊数が他の月と違う傾向を示している可能性も考えられます。全体の不読率が8.3%,平均読書冊数が11.5冊となっています。不読率は、学年が上がるにつれ増加しています。平均読書冊数では、小学1年と2, 3年を比較すると学年が上がると減少しています。

8. お子さんは、先月1ヶ月間に学校での読書活動以外で本を読みましたか。

(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌を除く。学校図書館にある学習マンガは、含める。)

	1年生		2年生		3年生		全体	
はい	80	76.9%	75	75.0%	42	70.0%	197	74.6%
いいえ	24	23.1%	25	25.0%	18	30.0%	67	25.4%

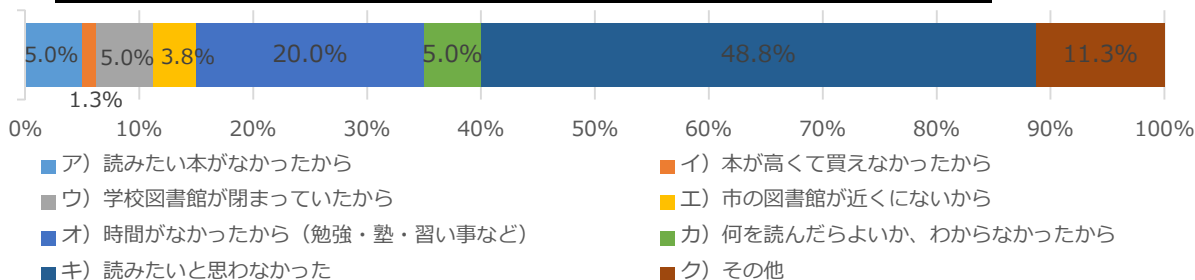


全体で74.6%が学校以外で本を読んでいます。

9. 8の質問で、イ)「いいえ」を選んだ方に質問します。

お子さんが本を読まなかった理由は何ですか。(複数回答可)

ア) 読みたい本がなかったから	4	5.0%
イ) 本が高くて買えなかったから	1	1.3%
ウ) 学校図書館が閉まっていたから	4	5.0%
エ) 市の図書館が近くにないから	3	3.8%
オ) 時間がなかったから(勉強・塾・習い事など)	16	20.0%
カ) 何を讀んだらよいか、わからなかったから	4	5.0%
キ) 読みたいと思わなかった	39	48.8%
ク) その他	9	11.3%

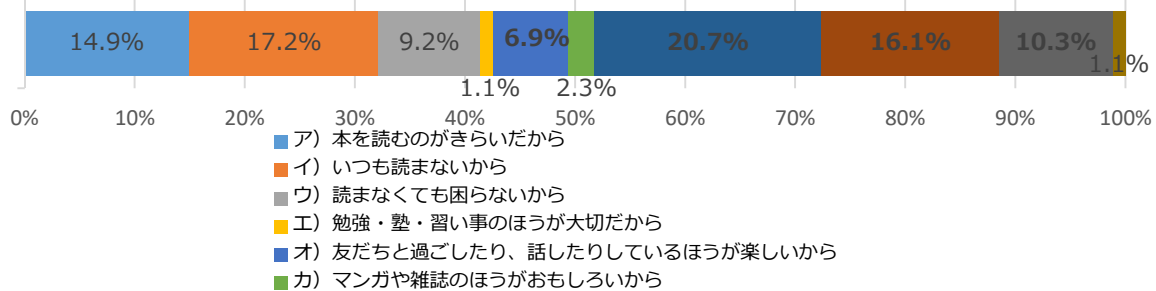


- 【その他】
- ・文字が読めない
 - ・マンガばかり読むようになってしまった
 - ・本人が読もうと思ってないから
 - ・家に帰るとテレビなどのメディアに気がむくから
 - ・マンガを読んでいる。
 - ・家に帰るとタブレットを触ってる事が多いので本を読むことはほとんどない
 - ・字や挿絵を見ると、目が疲れれたり混乱するから読みたくないと言う
 - ・わからない
 - ・ゲームやYouTubeを見てしまう、そっちに興味があるから。

「読みたいと思わなかった」が48.8%、次いで「時間がなかったから」が20.0%となっています。

10. 9の質問で、キ)「読みたいと思わなかった」を選んだ方に質問します。その理由は何ですか。(複数回答可)

ア) 本を読むのがきらいだから	13	14.9%
イ) いつも読まないから	15	17.2%
ウ) 読まなくても困らないから	8	9.2%
エ) 勉強・塾・習い事のほうが大切だから	1	1.1%
オ) 友だちと過ごしたり、話したりしているほうが楽しいから	6	6.9%
カ) マンガや雑誌のほうがおもしろいから	2	2.3%
キ) テレビやDVD、ゲームのほうがおもしろいから	18	20.7%
ク) スマートフォン・タブレット・パソコンのほうがおもしろいから	14	16.1%
ケ) 本を読むのはめんどろだから	9	10.3%
コ) その他	1	1.1%



- 【その他】
- ・文字を読むのに苦手意識が高い

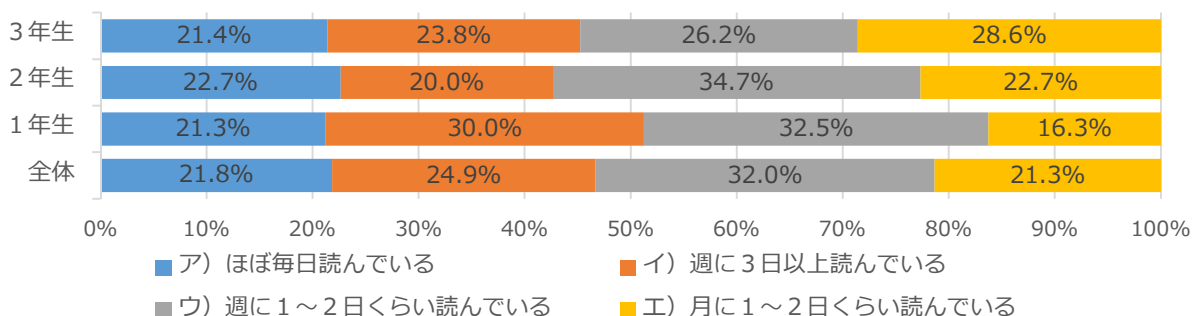
「テレビやDVD、ゲームの方がおもしろい」「スマートフォン・タブレット・パソコンのほうがおもしろい」を合わせて36.8%と、他に興味があることが分かります。また「本を読むのがきらい」「いつも読まない」を合わせると32.1%となっており、読書への興味がない割合を示していると考えられます。

11. 8の質問で、ア)「はい」を選んだ方に質問します。

お子さんは、学校以外で本（電子書籍を含む）を読んでいますか。

(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌を除く。学校図書館にある学習マンガは、含める。)

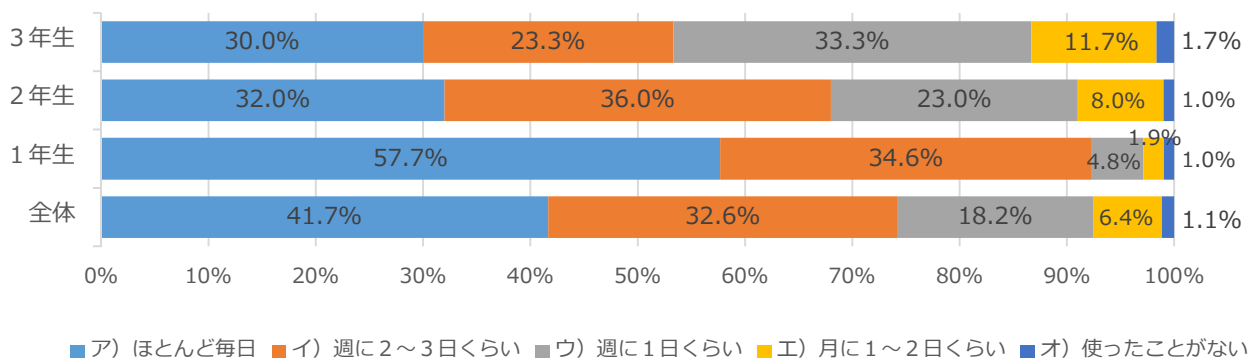
	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) ほぼ毎日読んでいる	17	21.3%	17	22.7%	9	21.4%	43	21.8%
イ) 週に3日以上読んでいる	24	30.0%	15	20.0%	10	23.8%	49	24.9%
ウ) 週に1～2日くらい読んでいる	26	32.5%	26	34.7%	11	26.2%	63	32.0%
エ) 月に1～2日くらい読んでいる	13	16.3%	17	22.7%	12	28.6%	42	21.3%



学校以外で本を読んでいると回答した内、「ほぼ毎日読んでいる」「週に3日以上読んでいる」「週に1～2日読んでいる」を合わせると78.7%となっており、おおよそ読書習慣が身についているといえます。

12. お子さんは、学校図書館で、どれくらい本を借りますか。（どれか1つに○をつけてください。）

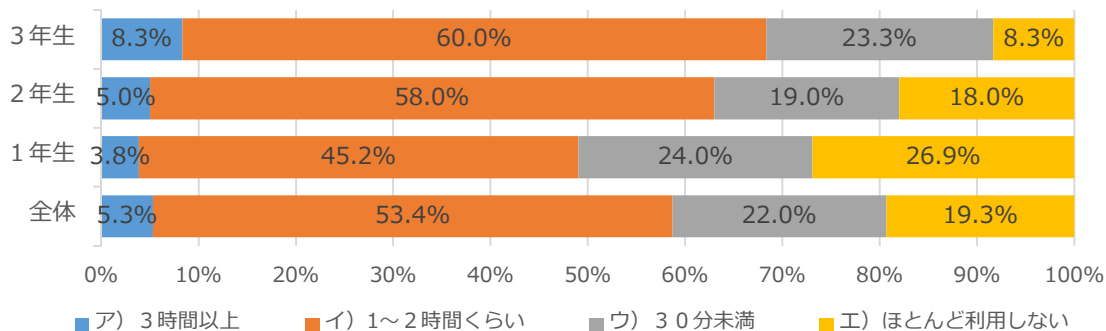
	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) ほとんど毎日	60	57.7%	32	32.0%	18	30.0%	110	41.7%
イ) 週に2～3日くらい	36	34.6%	36	36.0%	14	23.3%	86	32.6%
ウ) 週に1日くらい	5	4.8%	23	23.0%	20	33.3%	48	18.2%
エ) 月に1～2日くらい	2	1.9%	8	8.0%	7	11.7%	17	6.4%
オ) 使ったことがない	1	1.0%	1	1.0%	1	1.7%	3	1.1%



小学1年では「ほとんど毎日」が57.7%、小学3年では30.0%と減少しています。また、「月に1～2日」「使ったことがない」を合わせると、小学1年では2.9%、小学3年では13.4%とほとんど利用しない割合が増加しており、学年が上がるにつれ、学校図書館の利用頻度が減少しています。

13. お子さんは、平日に家でゲーム、動画、マンガ等でスマートフォン・タブレット、パソコンを1日どのくらい利用していますか。（どれか1つに○をつけてください。）

	1年生		2年生		3年生		全体	
ア) 3時間以上	4	3.8%	5	5.0%	5	8.3%	14	5.3%
イ) 1～2時間くらい	47	45.2%	58	58.0%	36	60.0%	141	53.4%
ウ) 30分未満	25	24.0%	19	19.0%	14	23.3%	58	22.0%
エ) ほとんど利用しない	28	26.9%	18	18.0%	5	8.3%	51	19.3%



小学1年では、約半数が1時間以上使用しており、学年が上がるにつれ、使用時間が増加しています。

【自由意見】

読み聞かせをしている時の子どもさんの様子はいかがですか。

本の絵を見たり、自分で思ったことや気づいたことを言ったりしている。
弟にも絵本を読み聞かせしてあげています。
話の中で疑問に思ったことなどその都度しゃべりながら聞いている
イメージを湧かせながら、静かに聞いている。
寝る前に読みます。一緒にどうだったかとか、どう思ったかなど話をしています。
下の子が年中さんなので年中さん向けの本をつい選んでしましますがにこにご嬉しそうに横から見えています。
キラキラしてます。やっぱり読み聞かせはいいなあ～と思います。
小学生になり、読み聞かせしてやる機会が減ったが、たまに園児の下の子の絵本を読んでいると、嬉しそうに一緒に聞いている。貴重な時間なんだと思います。
寝る前の習慣にしています。（時間が遅い日は読めない日もあります）
家族が読む本をじっと見えています。たまに、絵を指差したり、話をしたりしています。
じーっと聞いている時と、言い回しの楽しい本は一緒になって読んでいる。
登場人物になりきって読み聞かせをしてあげると、シーンごとに感想を口にしたり、声を上げて笑ったりします。
真剣に聞いている。時々感想を言いながら聞いている。
きょうだいでリアクションしながら聞いている。ただ3年生ともなると、自分の興味のある本はある程度本文が長くなり、内容もレベルアップしてくるので、読み聞かせをするよりは自分で読み進めていくことが多くなったと思う。
親子や兄弟とのふれあいの時間なので、楽しそうにしている
思ったことを話したり、絵を見て楽しんでいる
話終わった後、自分の思ったことを教えてくれる。また、絵をみてここがこうなっていると、細かいところまでじっくり見るのがその時により、集中していたり、他に意識を取られたり。
字が読めるようになってからは、ほとんど自分で読んでいます。時々、読んでほしいと言ってることがあれば読み聞かせています。甘えているのかな？という印象です。
保育園のときには毎日読んでいた。就学してから苦手意識高くなってよみたがらなくなった。読んでもらえるのを毎日楽しみにし興味ある本とそうじゃない本とで集中力が全然違う。
普段は自分で読む時とは違い、読み聞かせは話に聞き入っています。
じーっと聞いている。弟が間に入って中断してしまうと、はやく読んでと急かしてきます（笑）
興味深々でお話を聞いてくれます。疑問に思った事を読んでる途中でも聞いてくれたり、不思議に思った事を質問してくれながら、楽しんで聞いてくれます。
夜寝る前に、読み聞かせをします。弟、妹がいるため、幼稚な絵本の読み聞かせが、やや多く、本人は聞いてないかなと思ったから、絵は見えてなくても聞いているようで、毎日、読んでーと言ってくれます。「おもしろい？」と聞くと、「おもしろいし、なんか寝る前に聞くと気持ちよく寝れる」と言ってくれるので、読んでいます。3人兄弟いるので、それぞれ1冊ずつ、1日3冊読んで寝ます。布団に入っているのによく見えてないですが、喜んでいてくれるようです。
毎晩読み聞かせをしてからじゃないと寝たくない、と言うくらいに読み聞かせは楽しい時間のようです。
よく聞いている。好きなお話だと毎日読んでと言われます。
年齢的にもう自分で読むので下の子の寝かしつけの読み聞かせのときに一緒に聞いているかんじです。絵本につっこみをいれたりしています。
読み聞かせはもういらないと言われました。
興味をもった絵本は進んで、子どもから見せて読んでくれることが多く、何度も読みたがる。字数が適度なものでないと集中力がもたない。
その時その時の自分の感情を声に出して感想を伝えてくれます
めっちゃ楽しいから読んで寝る前に時間があると好きな本を持ってきます！
自分の本を読み聞かせて欲しいということはほとんどなくなりましたが、妹の読み聞かせをにこにこしながら聞いている。
好きな本を借りてくるので、絵を見て楽しんだり、漢字の読み方を聞いてきたりすることもある。
黙って聞いていることもあれば、空想を膨らませて話してくれたり、この子はこうなんだよ、と教えてくれたりもする
膝の上に座らせて、読み聞かせをしています。本の読み聞かせをする事で落ち着いてそこから本の内容について話が切り開けたり、私自身も気持ちが穏やかになれるので嬉しいです。
よく読み聞かせするのですが、毎回、夢中になって聞いてくれます。一冊読むと、つぎもつぎもとなって毎回3冊は読みます。
聞いていないことが多いが、アレンジ（大袈裟な抑揚）をして読むと聴く。
話に集中して聞いてくれます。本の中で言葉の意味が分からないことも聞いて理解しようとしています。とても楽しそうに聞いて楽しそう、嬉しそう。ただ、もう3年生なので自分で黙読するのが中心で、読み聞かせはあまりしなくなった。（1年生までは毎日読み聞かせをしていた）
読み聞かせは、下の子にすることはあっても、小3の子にすることはあまりなくなりました。でも、一緒に聞いていたり、僕が読んであげる！と言ったりはりきっています。
急にこれを読んでと持ってきます。また、学校から借りてくる本はママが好きそうだなと思ってと借りてきてくれる時もあり自分が選んだ本なので、とても興味を持って聞いてくれます。ただ、自分で読む。となると、ママの方が早いから読んで！と、あまり進んでは読んでくれません。
1.2年生までは読み聞かせをしていましたが、年が上がるにつれてやらなくなってしまった。

その他、ご意見をお聞かせください。

学校図書に、面白い本が沢山あり、図書館へ行くのが楽しいようです。探偵もの。歴史マンガ等。
先月は夏休み期間中なので、平常とはことなります。調査する時期、もしくは質問内容を変更しないと、現状はわかりづらいのではないのでしょうか。
去年、小学校から貸し出されているタブレットで読もうかというアプリを使わせてもらって家でもタブレットを使ってたくさん本を読んでいましたが、その無料配信が今年度から無くなってしまってとても残念です。残念ですが、タブレットで本を読めると恵那市の図書館へ行く機会がすごく減ってしまって…どちらが良いか分からないなとも思いますがタブレットで本を読めるのはとても便利でした！
本を読むことから感情や知識を知る事もあるので、なるべく読んで欲しい時は叶えてあげたいですが…家事などで空いていない時にテレビに頼ってしまう事が多いです。
標識やマークの本が大好きなので、そういう本を学校図書にたくさん入れて欲しい
夏休みの読書感想文をやめてほしい
夏休みに毎朝、読書をしていたら、本が大好きになったようです。本を読むと、自分が物語の世界にいるような気分になると、言っていました。文章を読む力、集中力がついてきたように思います。
夏休み、毎朝の読書タイムを作って本を読んでいたら、本が大好きになったようです。物語の世界に自分がいるような感覚になる、と言っていました。文章を読む力、集中力がついてきたと思います。
絵本の読み聞かせは、好きで何冊も飽きずに聞いているが、自分で本を読むことがなかなかできない。
学校図書館の本をもっと増やしてほしいと思っています。
夏休みの読書感想文は誰のための、何のためのものなのか。何かに応募するために原稿用紙の枚数指定をしているのですか。日頃、学校であだけの長文を書く機会があるわけでもないのに、いきなり宿題として課すのは親にも何より子ども自身に大きな負担がかかる。そんなもののために読書を強制し、本を読むことが嫌いにならなければいいと思う。何かに応募するなら任意で、読書感想文を宿題として課すなら、子どもが一人でも取り組みやすい量を書かせるべき。市としてやり方を考えるべきだと思う。原稿用紙3枚の文章量って、大人でも大変じゃないですか？
読書週間だと親も意識して読み聞かせに取り組めるので定期的にやってもらえると嬉しい。忙しい日々の中で、どうしても読み聞かせは後回しになってしまう
本を読むことを習慣にしてあげたいと思いつつ、子供が大きくなるにつれて、後回しになってしまっている現状です。
週末に出掛ける予定がない時は『図書館行く？』と声掛けしています。押し付けるのではなく、本人の意志を尊重するようにしています。市の図書館では色々なイベントがあるので楽しめています。
文章に慣れ読解力をつけることは、学習にとっても役立つ
文字が読めないと学校生活につまづきやすいと感じました。実際学校に行けない時期もありました。今は支援学級ですが、文字が読みにくい事に気がつくのが親としても遅れました。どうしたらよかったのか、、、。とったりします。
小学生でスマホやタブレットを持つようになって、本を読む時間が減りました。
弟の借りてきた絵本や、読んでほしい本を、積極的に読み聞かれています。親がするように、弟も疑問や感想にしっかり答えながら、一緒に楽しみながら読んでいると感じます。2人とも一歳未満から絵本を読み聞かせてきましたが、絵本がとても好きのように感じます。これからも、可能な限り続けていきたいと思います。
寝る前などに読み聞かせなど読書の習慣をつけることがなかなか出来ないまま、ここまでできてしまいました。そのせいか子供はやはり読書があまり好きでないの、親子のふれあいの時間としても今からでも意識して読書にふれたいと思いました。
タブレットやゲームの質問があり、ほとんどしないと回答しましたが、週に1回だけやる日が決まっており、その日は、2時間くらいやっています。
絵本の原画展など、本物に触れる機会がもっと増えればと思います
母は眠気と闘っています。
母が昔読んでいたようなやつをすすめるとつまらんといい、怖い話とか5分後に意外な結末とかライトノベルを読んでいます。よく考えたら母の好きだった本は女子向けだったのかもしれませんが。わたしたち親が読書好きなので、自然と読書をエンタメとして図書館にはいつもお世話になっています。
本に出てくる実験などの取組みが図書館でできるようになると本への親しみがよりわいてくると思います。
小さい頃から見てくれない。図書館へ行っても、走り回ってしまうので行かなくなった。
恵那の図書館も児童書コーナーが分かりやすく、利用しやすいです！読み聞かせにオススメ絵本がぱっとみて内容が、わかるようなポップがついていたりすると、選びやすいかなと思います。人気の本を借りられないときがあるので、冊数をふやしてほしい
産まれてからずっと読み聞かせを大事に、いつも寝る前などに読んでました。読み聞かせをすると、親子のふれあい時間になったり、本が好きになる。読んで想像力がふくらむ、読んで理解する力がつく、いいことがいっぱいと思って続けていました。しかし、小学校になり、国語の読み取りができない、図書館の本を借りてきても、好きなキャラクターがついているものを借りて満足し、読むことは全くない。とにかく本が好きではありません。読み聞かせすれば見るし聞きますが、自ら本を読むことは全くありません。むしろ嫌いです。なんでですかね…読み聞かせを持続してやってきたけど、我が子にはハマらなかったようです…悲しい…
本が好きだけれど読んであげる時間(余裕)がないので申し訳ないと思ってます。
学校が毎日貸してくれるので1人で読んだりする事が、有難いです
一年生なので、自分でストーリーのある本を読み上げることが多くありませんが、読み聞かせは大好きです。家にいる時は図鑑を中心に、色々な本を読んでいます。

親である自分は本が好きで、我が子が赤ちゃんの時から本の読み聞かせをしてきたがこどもは本当に本に対してあまり興味を持たないため、読み聞かせが当たり前みたいな雰囲気苦に苦労した。
こういったアンケートを受けると、本に興味がない事や本を読まない子がダメだというような気分になんともなくさせられる。
Q7とQ8の設問に関して、先月が夏休み中で学校に行っていないので学校図書の利用が通常より少なく、回答にちょっと困りました。
彼女が子供の頃から、私たちは家で本を読む練習をしており、彼女が大好きなさまざまな本を買いました。彼女は英語と日本語の本を楽しんで読んでいました。
子供の活字離れが進んでいるが、聞く力も読む力も文章を作るのにとっても役に立つと思うので、根気強くこれからも続けて行きたいと思う。
小学校低学年の読書感想文はやめてほしい。本を読む事が嫌になってしまう感じがあります。毎回泣きながら読書感想文を書いているので。
親が読書をする機会がないので、子供もそうなんだなと思いました。
読み聞かせをしてあげたいと思いつつも、毎日ハダハダと過ぎてしまって、なかなか読めないことが多いです。
下の子のこども園の本を返すのが週に1回なので、それに合わせてなんとか読んでいる、という感じです。本当はもう少しゆったりと時間を取ってあげたいと思っています。
宿題の首頭にしても、何かの説明にしても、読むことがめんどくさい。と言ったりしています。
なかなか本を自分から進んで読むことがないため。何かいい方法があればお聞きしたいです。
内容がわからないくらいの時期から、毎晩絵本を読み聞かせていました。今では、本が大好きです。
赤ちゃんの時から、寝る前に絵本を読むようにしていますが、夜は早く眠たくなってしまうことがほとんどで、読む前に眠ってしまします。もっと読み聞かせの時間をつくってあげたいなと思っています。
本を読むことは発育にも良くとても大切な事なので、これからも積極的に親子で読書を楽しみ、沢山の良い本に出会いたいです。
疲れていて読み聞かせをする気が起きない

(3) 恵那市読書調査（小学校4年生～中学校3年生）

アンケート調査

	今回	前回	前々回	(1次)
依頼	2315	2649	2931	3155
回答	1468	2396	2812	3051
回答率	63.4%	90.4%	95.9%	96.7%
中学校	720	1174	1394	1533
小学校	740	1224	1373	1518

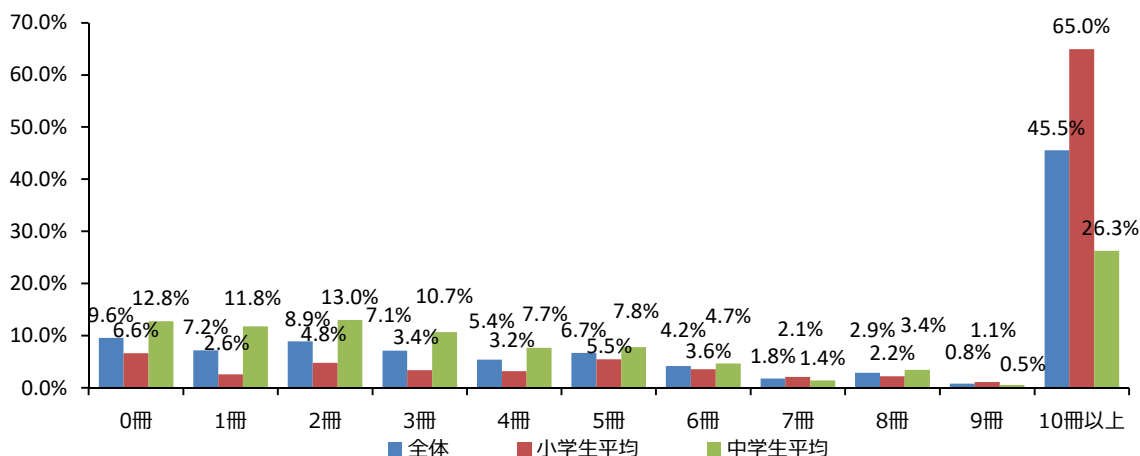
1. あなたの学年に○をつけてください。

小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
220	237	283	240	226	254

2. あなたは、先月1ヶ月間に本(電子書籍を含む)を何冊ぐらい読みましたか。

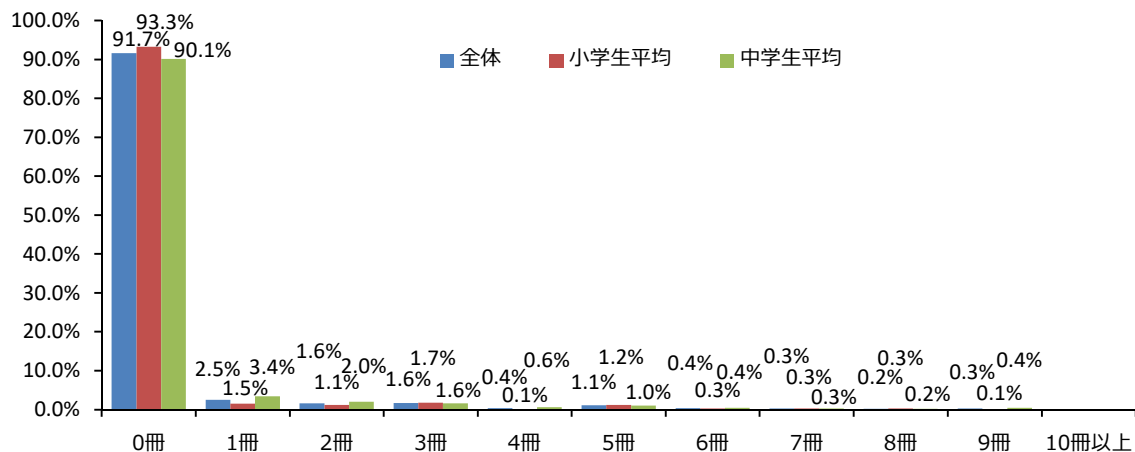
(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく。学校図書館にある学習マンガは、含める。)

1冊も読まなかった人は0と書いてください。



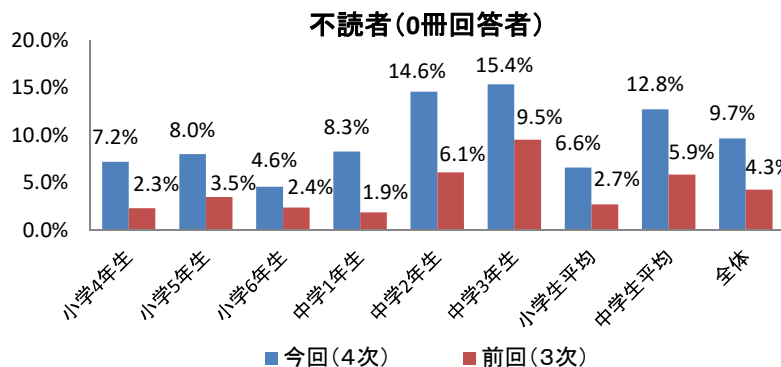
	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上
小学4年生	7.2%	3.6%	3.6%	0.5%	2.3%	4.1%	3.6%	2.3%	1.4%	1.8%	69.8%
小学5年生	8.0%	1.3%	5.5%	3.4%	3.8%	4.2%	2.5%	1.3%	2.5%	0.4%	67.1%
小学6年生	4.6%	2.8%	5.3%	6.4%	3.5%	8.1%	4.6%	2.8%	2.8%	1.1%	58.0%
中学1年生	8.3%	7.5%	9.5%	9.5%	8.7%	5.4%	5.4%	2.1%	4.6%	1.2%	37.8%
中学2年生	14.6%	9.3%	14.6%	11.1%	8.0%	9.7%	3.5%	1.3%	2.2%	0.0%	25.7%
中学3年生	15.4%	18.5%	15.0%	11.4%	6.3%	8.3%	5.1%	0.8%	3.5%	0.4%	15.4%
全体	9.6%	7.2%	8.9%	7.1%	5.4%	6.7%	4.2%	1.8%	2.9%	0.8%	45.5%
小学生平均	6.6%	2.6%	4.8%	3.4%	3.2%	5.5%	3.6%	2.1%	2.2%	1.1%	65.0%
中学生平均	12.8%	11.8%	13.0%	10.7%	7.7%	7.8%	4.7%	1.4%	3.4%	0.5%	26.3%

電子書籍



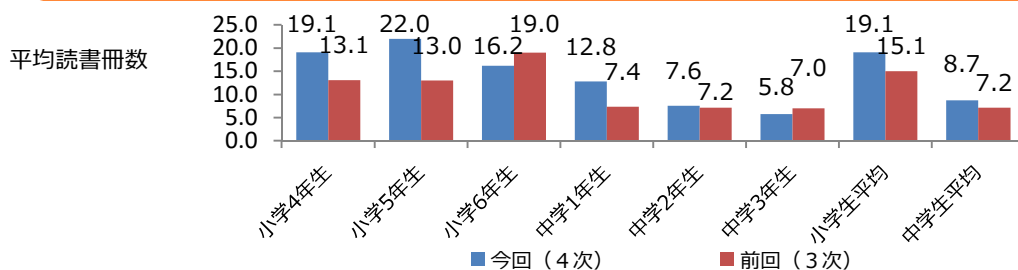
	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上
小学4年生	94.3%	0.5%	1.4%	2.4%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
小学5年生	93.3%	1.8%	0.9%	1.3%	0.0%	1.3%	0.0%	0.4%	0.9%	0.0%	0.0%
小学6年生	92.3%	2.2%	1.1%	1.5%	0.4%	1.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
中学1年生	92.2%	3.5%	0.9%	0.4%	0.0%	1.7%	0.4%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%
中学2年生	88.6%	3.6%	2.7%	2.7%	0.9%	0.5%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%
中学3年生	89.6%	3.2%	2.4%	1.6%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
全体	91.7%	2.5%	1.6%	1.6%	0.4%	1.1%	0.4%	0.3%	0.2%	0.3%	0.0%

電子書籍を読んでいる小中学生は、1割未満となっています。



全国学校図書館協議会 「第67回読書調査」より抜粋

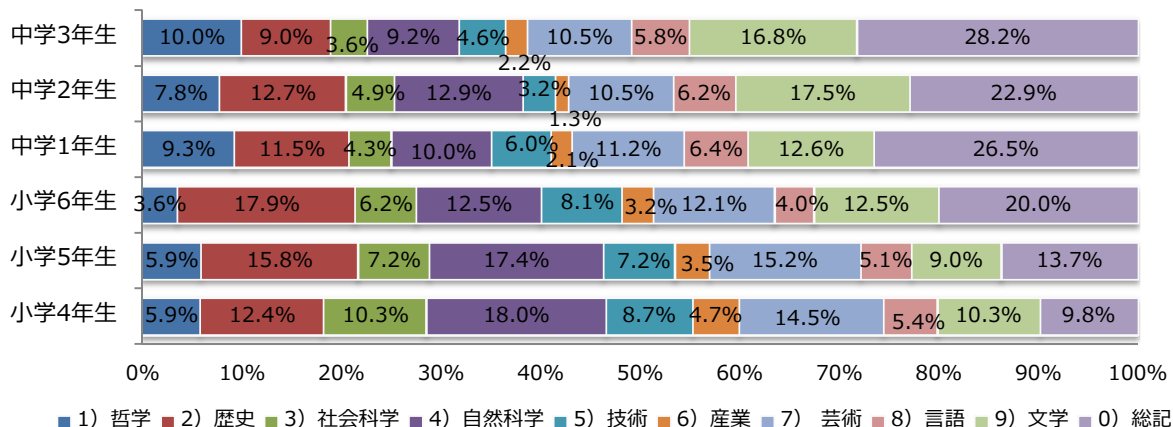
小学生(4-6年生)の不読率は、全国平均の6.4%に比べ6.6%で全国平均を若干上回っています。中学生では、全国平均の18.6%に比べ12.8%で低くなっています。小中学生ともに、前回調査より不読率が上昇しています。



全国学校図書館協議会「第67回読書調査」より抜粋

小学生では、全国平均の13.2冊と比べ、19.1冊、中学生では、全国平均4.7冊と比べ8.7冊とともに全国平均を上回っています。小中学生ともに前回調査より読書冊数が増加しています。

3 紙の本でよく読む種類は何ですか。(複数回答可)



よく読む種類

小学生：1.自然科学 16.0%

2.歴史 15.4%

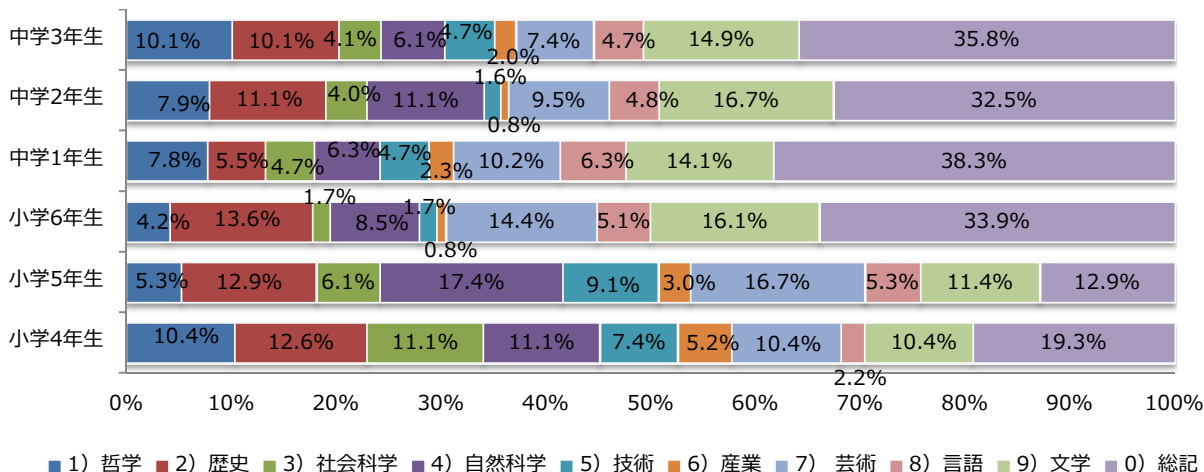
中学生：1.総記 25.9%

2.文学 15.6%

学年が上がるにつれ、「文学」「総記」「哲学」が増加し、「自然科学」「芸術」が減少していく傾向がみられます。

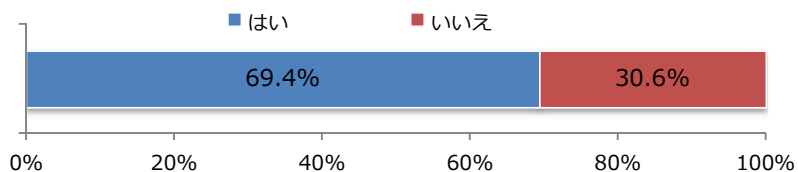
4 電子書籍（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく。学校図書館にある学習マンガは、含める。）を読んでいる方に質問します。

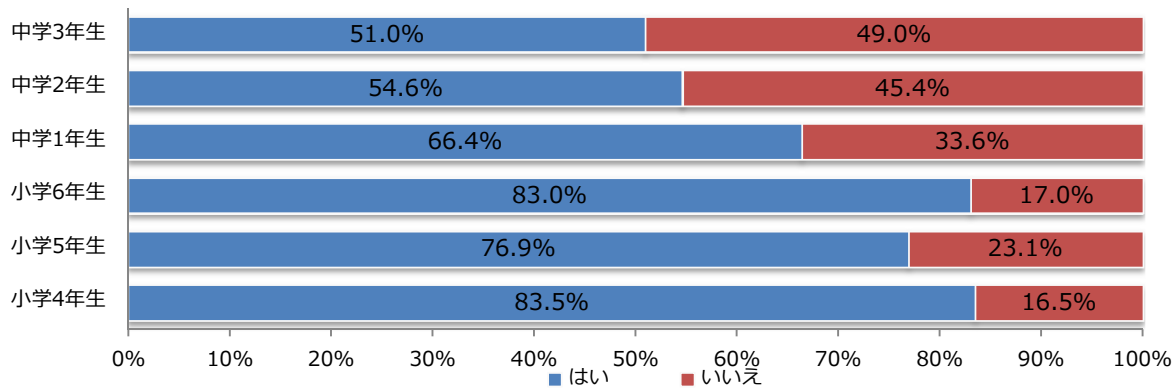
読んだ電子書籍の中でよく読む種類は何ですか。(複数回答可)



5 あなたは、先月1ヶ月間に学校での読書活動以外で本を読みましたか。

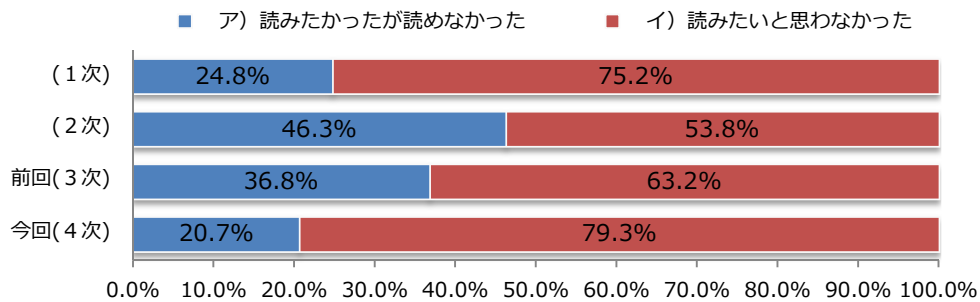
(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく。学校図書館にある学習マンガは、含める。)





年齢が上がるほど、学校以外での読書割合が減少しています。

6 5の質問で、イ)「いいえ」を選んだ人に質問します。本を読まなかった理由は何ですか。

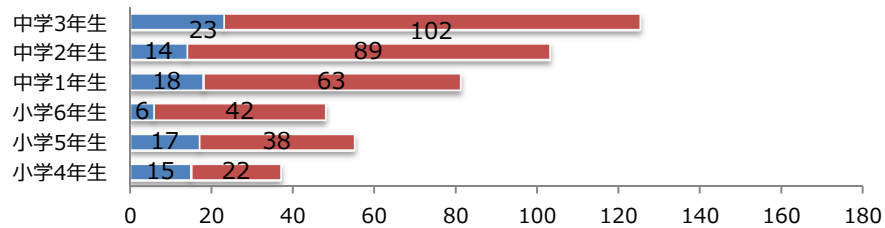


前回調査より、「読みたいと思わなかった」割合が増加しています。

学年別内訳(人数)

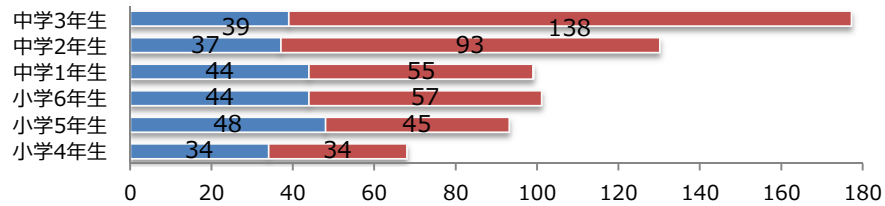
■今回

(4次)

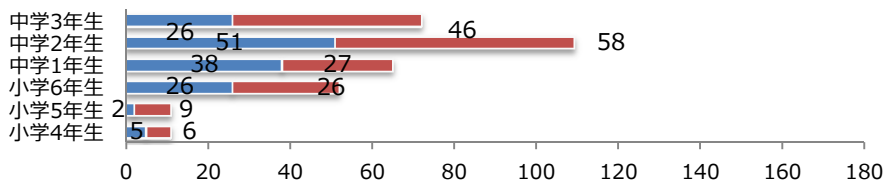


■前回

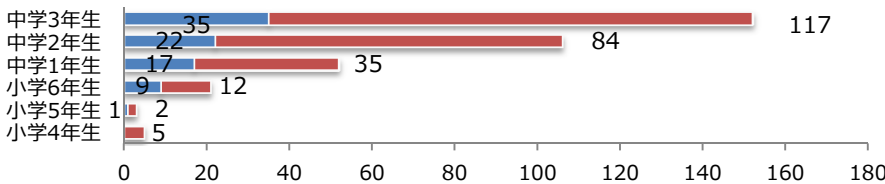
(3次)



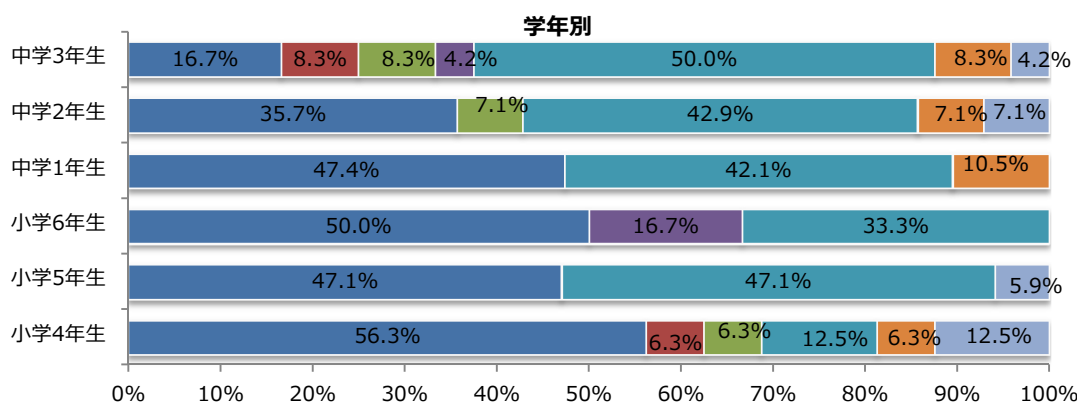
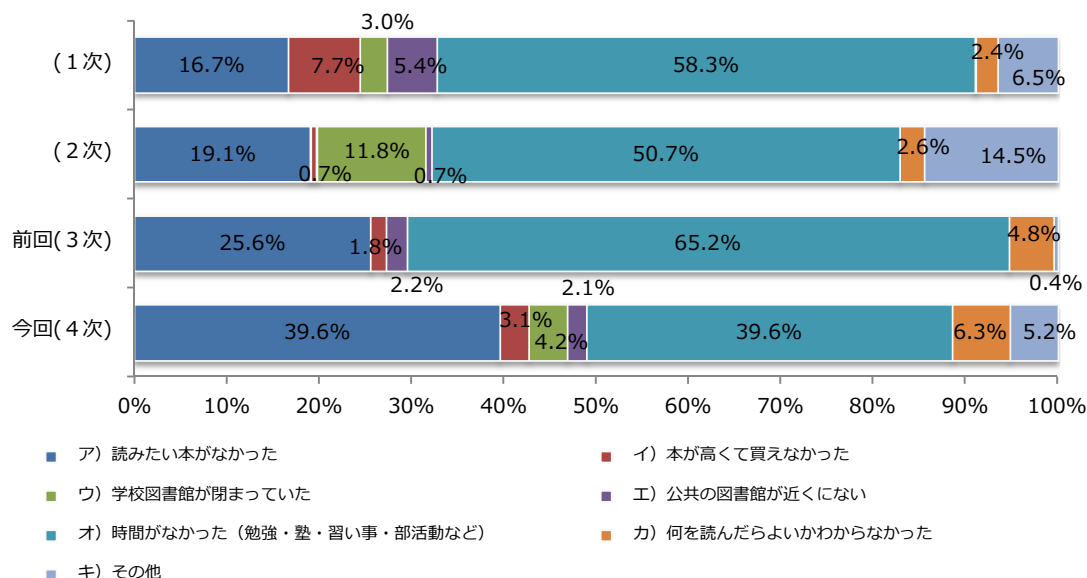
(2次)



(1次)



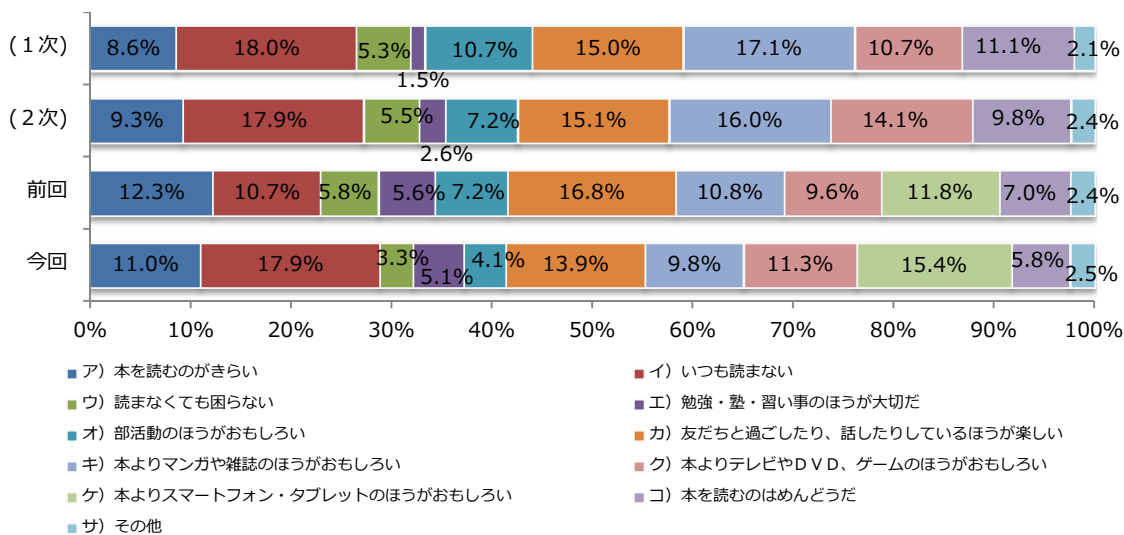
7 6の質問で、ア)「読みたかったけれど読めなかった」を選んだ人に質問します。
その理由は何ですか。(複数回答可)



前回調査より、「読みたい本がなかった」割合が増加しています。小学生では、約半数となっており、読みたい本が手元にあれば読むのではないかと考えられます。

8 6の質問で、イ)「読みたいと思わなかった」を選んだ人に質問します。その理由は何ですか。(複数回答可)

今回の回答内訳	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	計
本を読むのがきらい	5	7	12	13	27	16	80
いつも読まない	6	14	10	24	40	36	130
読まなくても困らない	2	1	0	6	3	12	24
勉強・塾・習い事のほうが大切だ	5	5	4	8	4	11	37
部活動のほうがおもしろい	2	1	1	1	8	17	30
友だちと過ごしたり、話したりしているほうが楽しい	2	11	9	19	28	32	101
本よりマンガや雑誌のほうがおもしろい	4	5	5	17	16	24	71
本よりテレビやDVD、ゲームのほうがおもしろい	6	7	10	17	13	29	82
本よりスマートフォン・タブレットのほうがおもしろい	4	4	13	24	25	42	112
本を読むのはめんどろだ	2	5	8	4	12	11	42
その他	1	2	4	5	3	3	18
計	39	62	76	138	179	233	727



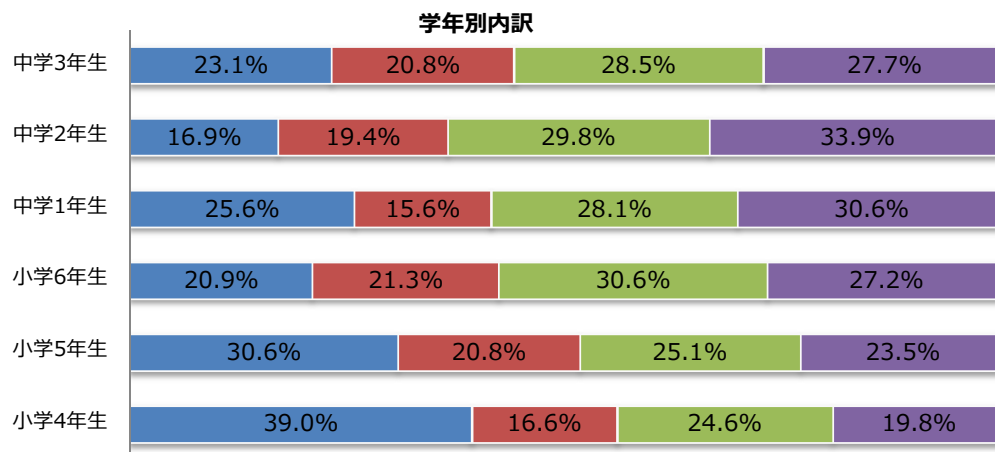
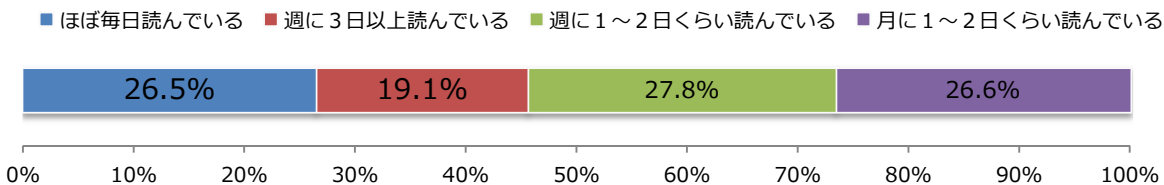
- ・本をかりにいくのがめんどろだから
- ・自分の読みたいものがないから
- ・おもしろい本がない
- ・忘れていた。
- ・読む気が起きなかったから
- ・読んだら前の話を忘れちゃって読めない
- ・スマホで見たほうが簡単に見れる
- ・漫画は長くて読めないから。
- ・図書館に行かないから
- ・時間がないから

「本を読むのが嫌い」「いつも読まない」が3割程度あり、また学年が上がるにつれ増加傾向があります。「スマートフォン・タブレットのほうがおもしろい」も増加しています。

9 5の質問で、ア)「はい」を選んだ人に質問します。

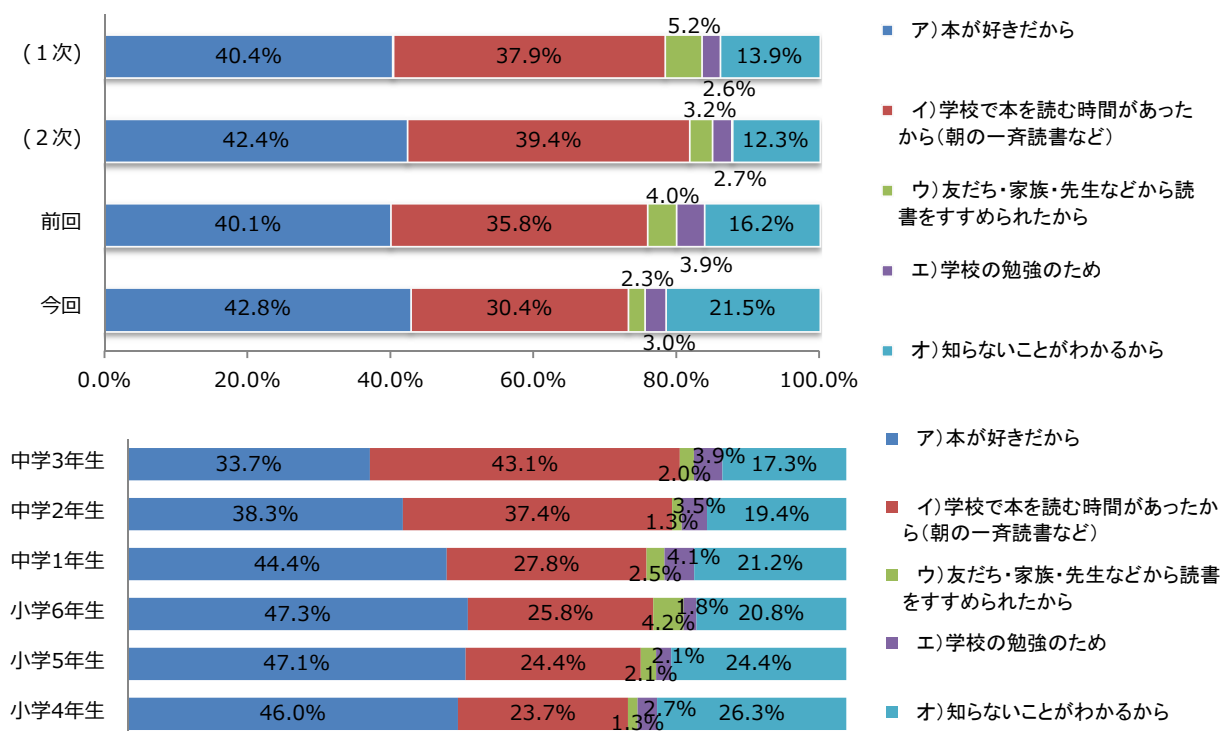
あなたは、学校以外で本（電子書籍を含む）を読んでいますか。

（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞく。学校図書館にある学習マンガは、含める。）



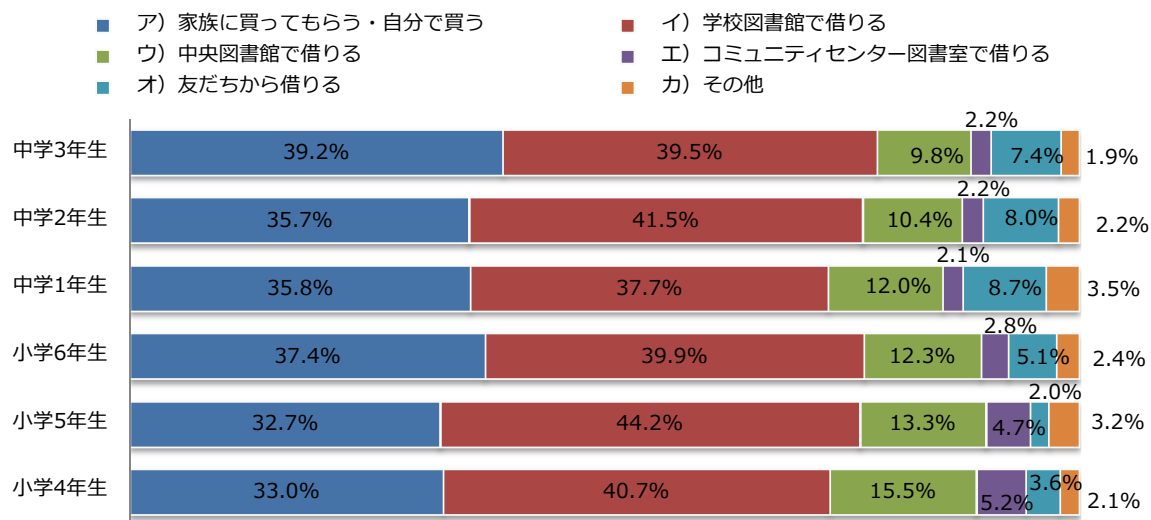
「ほぼ毎日読んでいる」「週に3日以上読んでいる」を合わせて45%、「週に1～2日くらい読んでいる」を含めると73%となっており、おおよそ読書習慣は身についているといえます。学年が上がるにつれ、学校以外での読書が減少傾向にあります。

10 あなたが、本を読む理由は何ですか。（おもなもの1つに○をつけてください）



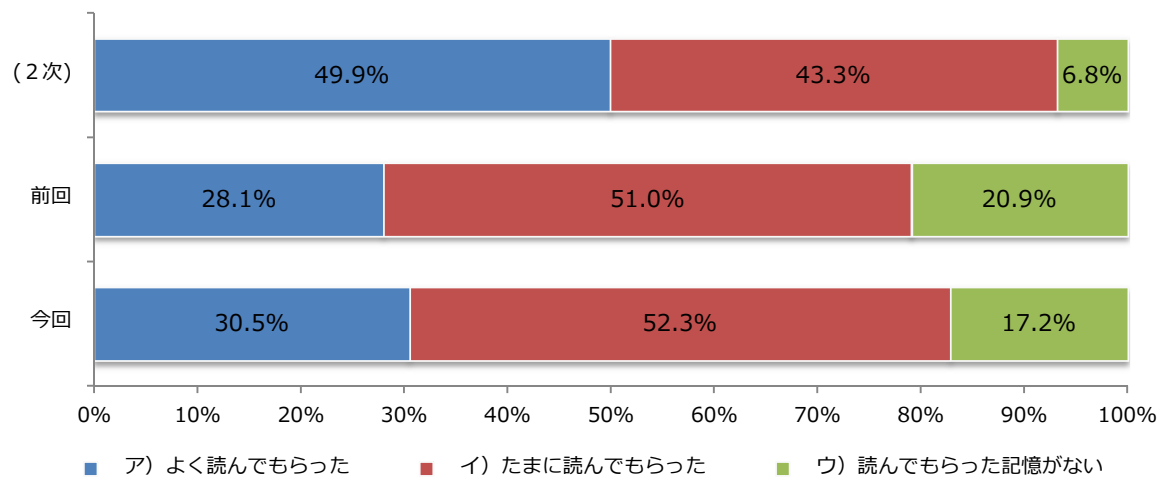
「本が好きだから」の割合が、小学生と比較して中学生で減少、また、学年が上がるにつれ「学校で本を読む時間があつたから」の割合が多くなり、自発的な読書が減少しています。前回調査より「知らないことがわかるから」の割合が増加しており、調べ学習において、本を活用する習慣が身についてきていることも伺えます。

11 あなたは、本を読むとき、どんな方法で本を準備しますか。（複数回答可）



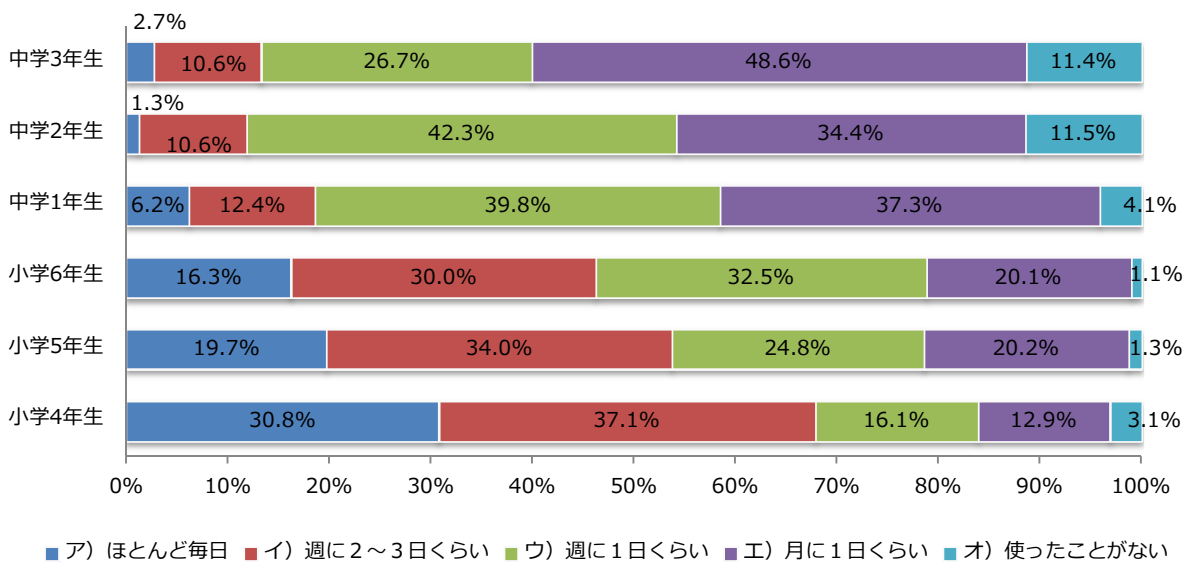
「学校図書館で借りる」割合は、前回調査では、5割以上であったのに対し、今回調査では、約4割と減少しています。

12 あなたは、家族の人から本を読んでもらったことがありますか。



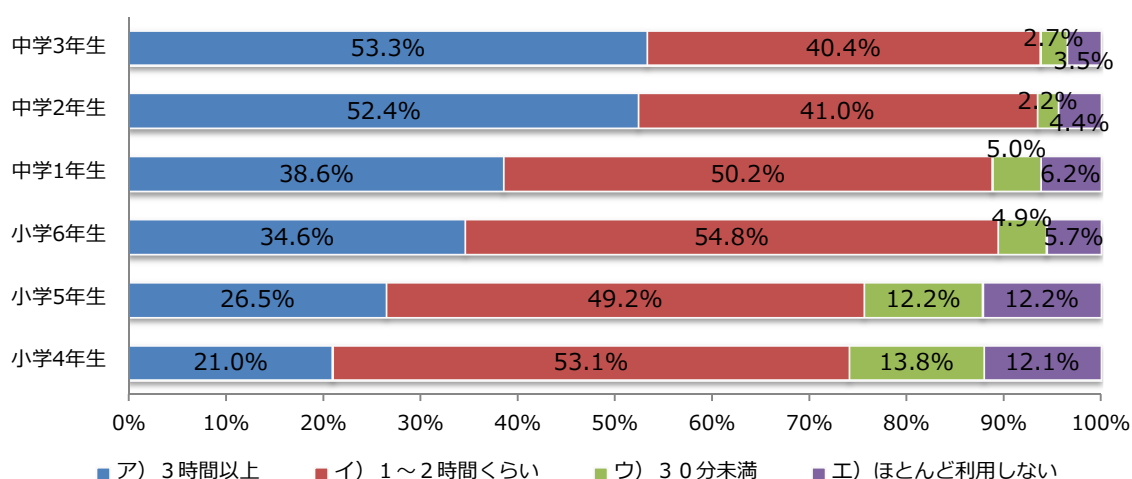
「よく読んでもらった」「たまに読んでもらった」の割合は8割を超えています。前回、前々回調査の3歳児保護者への調査で、週1日以上読み聞かせをする方が9.5割以上いることから考えると、読み聞かせをしてもらったことを記憶していない割合が一定数あるようです。

13 あなたは、学校図書館で、どれくらい本を借りますか。



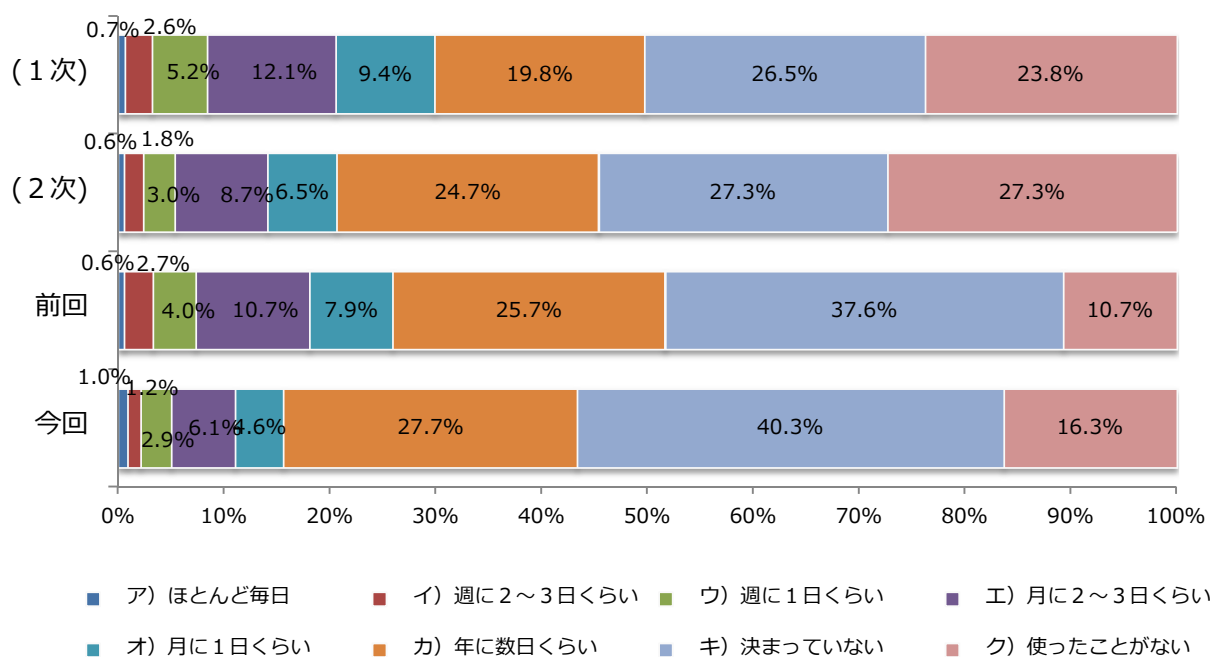
学年が上がるにつれ、学校図書館の利用が減少しています。小学5、6年生では、「月に1日くらい」の利用が、前回調査では1割であったのが2割と増加しており、小学校高学年から、利用頻度の減少傾向が見られます。

14 あなたは、平日に家でゲーム、動画、マンガ等でスマートフォン・タブレット、パソコンを1日どのくらい利用していますか。

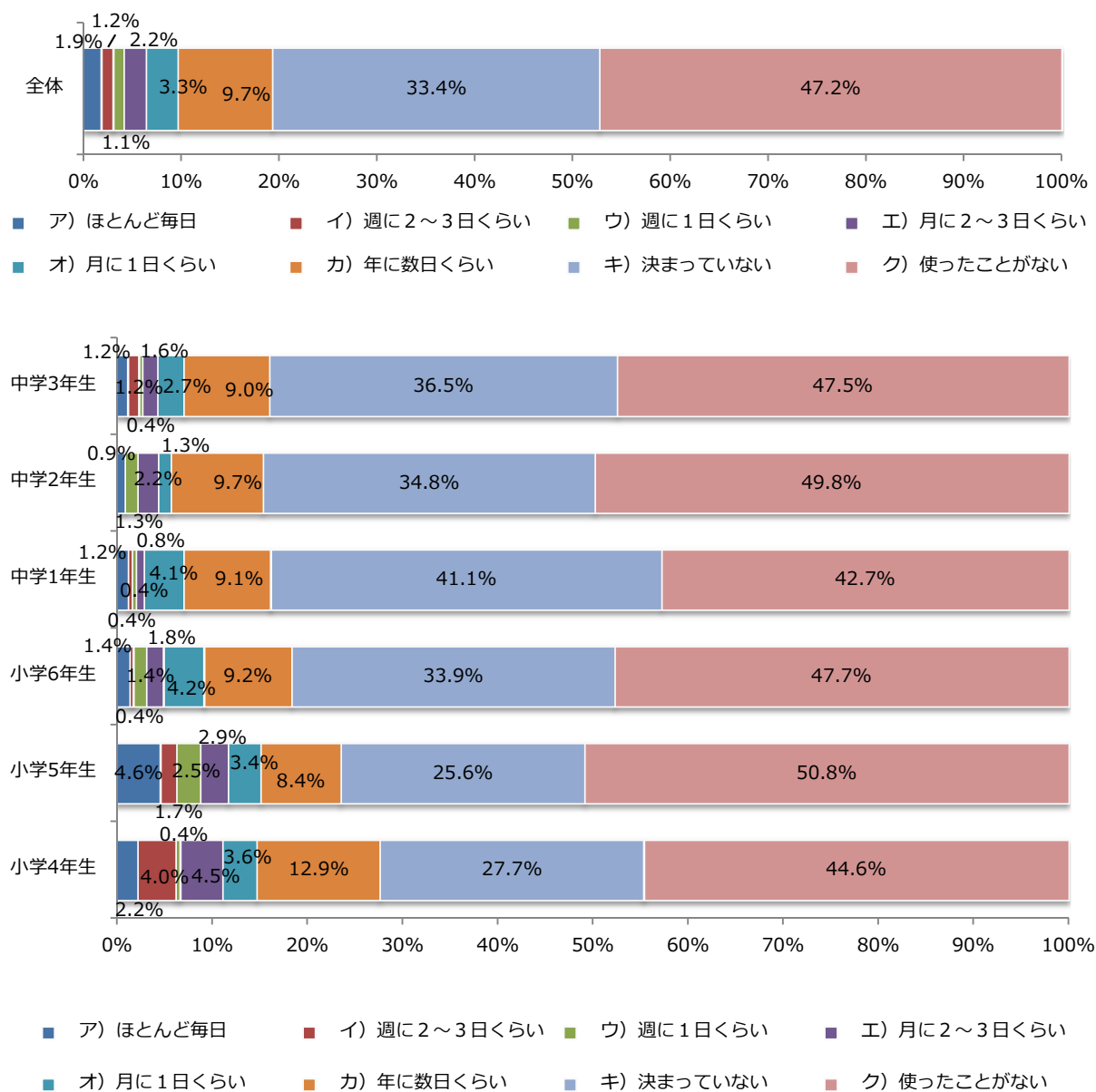


学年が上がるにつれ、使用時間が増加しています。中学2、3年生では、「3時間以上」が5割あり、多くの時間を使っていることがわかります。

15 あなたは中央図書館をどのくらい利用しますか。



16 あなたは地域のコミュニティセンター図書室をどれくらい利用しますか。



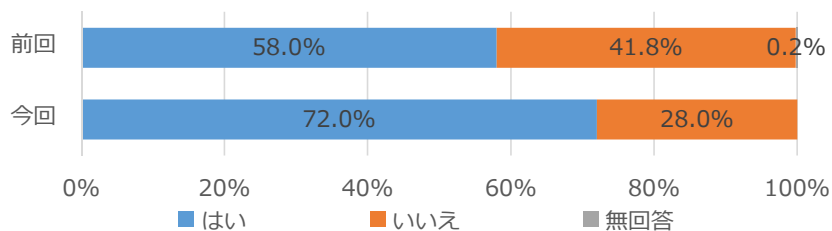
(4) 恵那市読書調査(市内高等学校)

回答者

	今回		前回	
回答	282	79.0%	406	99.8%
無回答	75	21.0%	1	0.2%

1. あなたは読書が好きですか

	今回		前回	
はい	203	72.0%	236	58.0%
いいえ	79	28.0%	170	41.8%
無回答			1	0.2%



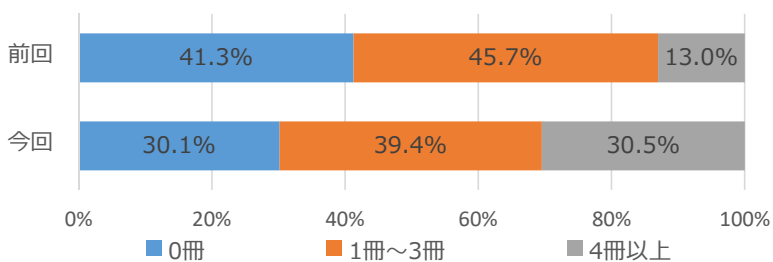
読書が好きだと回答した割合が72%と、前回の58%と比較し増加しています。

2. あなたは、この一ヶ月間に本を何冊読みましたか。

(教科書・学習参考書・漫画・雑誌を除く。学校図書館にある学習漫画は、含める。)

1 冊も読まなかった人は0 と書いてください。

	今回		前回	
0冊	85	30.1%	168	41.3%
1冊～3冊	111	39.4%	186	45.7%
4冊以上	86	30.5%	53	13.0%
不読率 全国平均		51.1%		50.4%



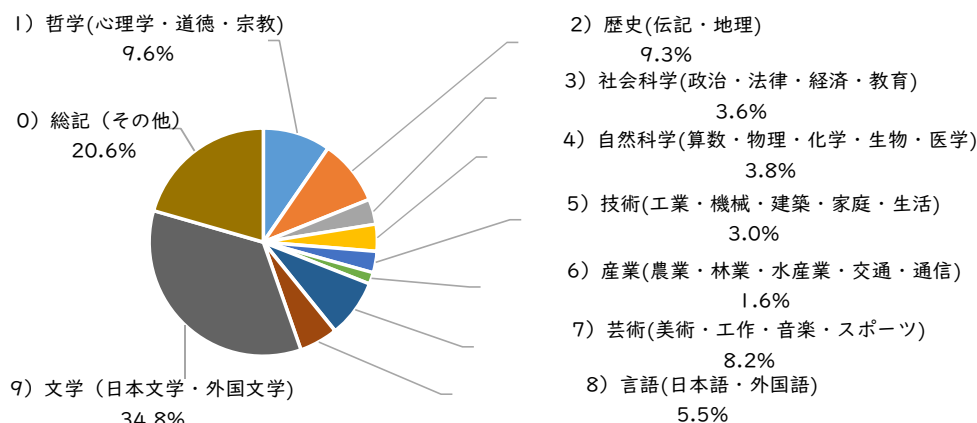
内 電子図書の冊数

	今回		前回	
0冊	245	88.8%	376	92.4%
1冊～3冊	22	8.0%		
4冊以上	9	3.2%	31	7.6%

1 か月間に1冊も本を読まなかった不読者の割合は30.1%と、全国平均より下回っています。また、前回の41.3%より減少していることから、読書習慣が身についてきていると考えられます。

3. 読んだ紙の本の中で良かったと思う本の種類は何ですか。(複数回答可)

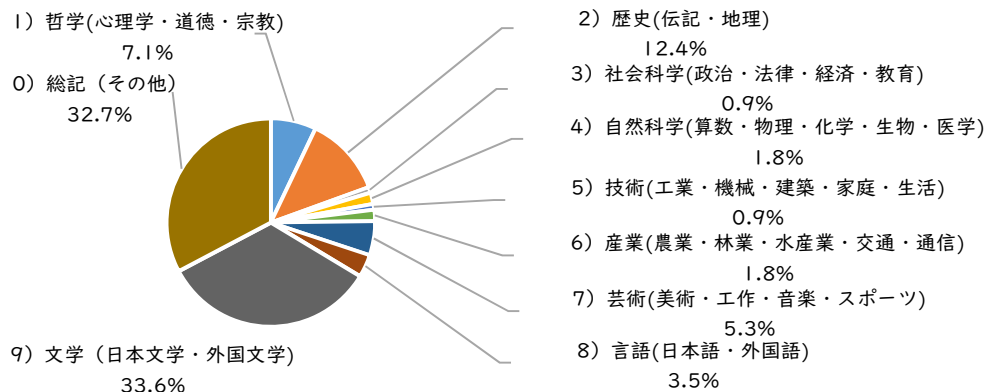
1) 哲学(心理学・道徳・宗教)	35	9.6%
2) 歴史(伝記・地理)	34	9.3%
3) 社会科学(政治・法律・経済・教育)	13	3.6%
4) 自然科学(算数・物理・化学・生物・医学)	14	3.8%
5) 技術(工業・機械・建築・家庭・生活)	11	3.0%
6) 産業(農業・林業・水産業・交通・通信)	6	1.6%
7) 芸術(美術・工作・音楽・スポーツ)	30	8.2%
8) 言語(日本語・外国語)	20	5.5%
9) 文学(日本文学・外国文学)	127	34.8%
0) 総記(その他)	75	20.6%



4. 電子書籍(教科書・学習参考書・漫画・雑誌を除く。学校図書館にある学習漫画は、含める。)を読んでいる方に質問します。

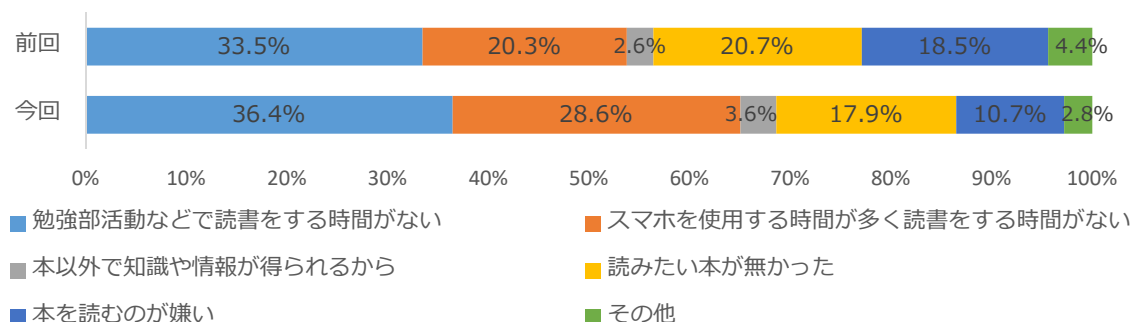
読んだ電子書籍の中でよく読む種類は何ですか。(複数回答可)

1) 哲学(心理学・道徳・宗教)	8	7.1%
2) 歴史(伝記・地理)	14	12.4%
3) 社会科学(政治・法律・経済・教育)	1	0.9%
4) 自然科学(算数・物理・化学・生物・医学)	2	1.8%
5) 技術(工業・機械・建築・家庭・生活)	1	0.9%
6) 産業(農業・林業・水産業・交通・通信)	2	1.8%
7) 芸術(美術・工作・音楽・スポーツ)	6	5.3%
8) 言語(日本語・外国語)	4	3.5%
9) 文学(日本文学・外国文学)	38	33.6%
0) 総記(その他)	37	32.7%



5. 2の質問で、「0冊」と答えた方に質問します。読まなかった理由はなぜですか。(複数回答可)

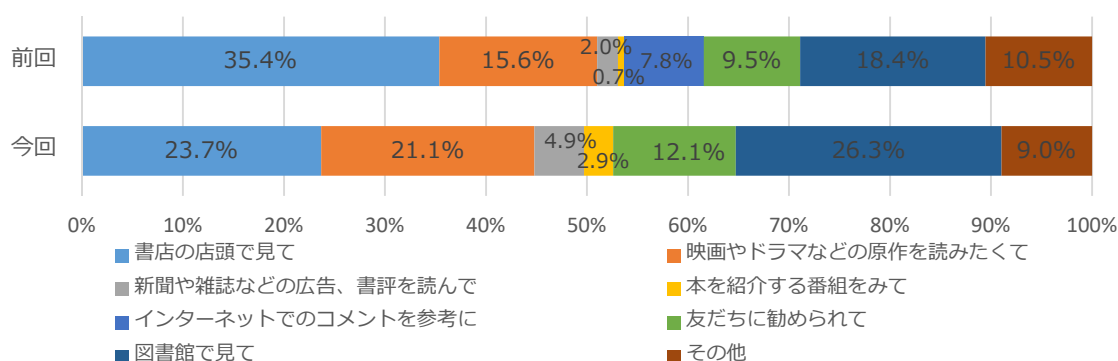
	今回		前回	
勉強部活動などで読書をする時間がない	51	36.4%	76	33.5%
スマホを使用する時間が多く読書をする時間がない	40	28.6%	46	20.3%
本以外で知識や情報が得られるから	5	3.6%	6	2.6%
読みたい本が無かった	25	17.9%	47	20.7%
本を読むのが嫌い	15	10.7%	42	18.5%
その他	4	2.8%	10	4.4%



「勉強、部活動などで読書をする時間がない」が、36.4%と3割を超えています。次いで「スマホを使用する時間が多く読書をする時間がない」で、前回の20.3%から28.6%と大きく増加しており、読書時間の確保が課題と考えられます。また、「本を読むのが嫌い」の割合は減少しました。

6. 2の質問で「1冊」以上と答えた方に質問します。あなたは、読む本をどのように選びますか。(複数回答可)

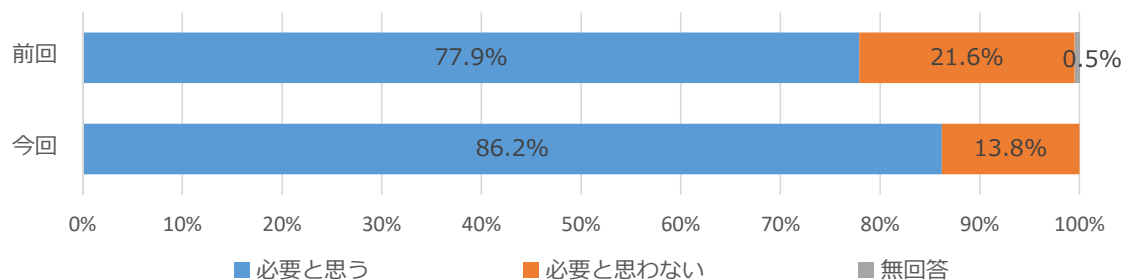
	今回		前回	
書店の店頭で見て	82	23.7%	104	35.4%
映画やドラマなどの原作を読みたくて	73	21.1%	46	15.6%
新聞や雑誌などの広告、書評を読んで	17	4.9%	6	2.0%
本を紹介する番組をみて	10	2.9%	2	0.7%
インターネットでのコメントを参考に	0	0.0%	23	7.8%
友だちに勧められて	42	12.1%	28	9.5%
図書館で見て	91	26.3%	54	18.4%
その他	31	9.0%	31	10.5%



「図書館で見て」「書店の店頭で見て」が多く、図書館や書店で情報を得ている割合が高いことが分かります。また、「映画やドラマなどの原作を読みたくて」「新聞や雑誌などの広告、書評を読んで」「友達に勧められて」も、前回より割合が増加しており、誰かに勧められたり、話題となった本を選ぶ基準にしていることが分かります。

7. 自分にとって読書は必要と思いますか。

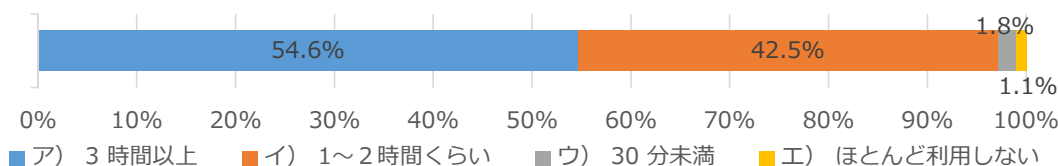
	今回		前回	
必要と思う	243	86.2%	317	77.9%
必要と思わない	39	13.8%	88	21.6%
無回答			2	0.5%



読書が必要と思う割合は86.2%と、前回の77.9%より大幅に増加しており、必要性を認識していることが分かります。

8. あなたは、平日に家でゲーム、動画、漫画等でスマートフォン・タブレット、パソコンを1日どのくらい利用していますか。

ア) 3時間以上	154	54.6%
イ) 1～2時間くらい	120	42.5%
ウ) 30分未満	5	1.8%
エ) ほとんど利用しない	3	1.1%



3時間以上利用している割合が54.6%あり、1～2時間をあわせると97.2%と、ほとんどの生徒が多くの時間使用して

【自由意見】

やって欲しい企画案恵那市中央図書館でやって欲しい企画案があれば教えて下さい。

テーマに沿った、それぞれの司書さんのおすすめの本の紹介
本ください
しおり配布
過去の雑誌プレゼント
カフェの併設
音楽、DVD鑑賞会
年代別おすすめ特集
ドラマとかの本をいっぱい入れて欲しいです！
バザーをやっている時に見に行ったんですけどバザーまたするなら食べ物系のお店があるといいです。古本のところにスタート文庫本を置いて欲しい。感動小説のお薦めを置いてくださると嬉しいです。静かなところなので好きです。ありがとうございます。
年代別おすすめ書籍を置くコーナー
睡眠会
本を見ながらドリンクフリーの日が欲しい
外のテラス席復活。
今の高校生が幼稚園児の頃に読んでいたような懐かしの絵本特集。
リクエストできる仕組み
有名な本のコーナーを作って欲しい
セミナールームを空けておいてくださると助かります
月曜日を開館日にする
学習スペースをもう少し大きくして欲しい
自習室としての開放

2. 子どもの読書活動の推進に関する法律

平成13年12月12日付法律第154号として公布され、同日施行されました。

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計

画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

恵那市子どもの読書活動推進計画策定委員会

(1) 策定経過

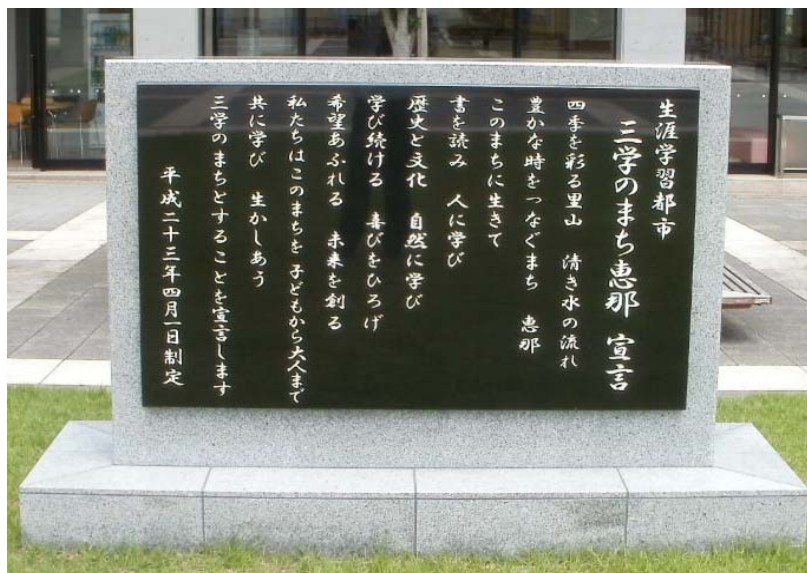
令和5年～6年	6月30日	第1回 策定委員会
	11月2日	第2回 策定委員会
	2月29日	第3回 策定委員会
令和5年～6年	7月4日	第1回 策定委員会作業部会
	8月24日	第2回 策定委員会作業部会
	9月29日	第3回 策定委員会作業部会
	12月22日	第4回 策定委員会作業部会

(2) 策定委員名簿

No.	選 出	所 属	氏 名	備考
1	学識経験者		長嶋 俊之	委員長
2	社会教育関係者・図書館サポーターえな代表	図書館サポーターえな	高草 環	副委員長
3	小中学校長会代表	大井第二小学校	伊藤 政之	
4	恵那市三学のまち推進委員会代表	恵那市三学のまち推進委員会	塚田 益巳	
5	図書館サポーターえな	図書館サポーターえな	足立 伊公子	
6	恵那市壮健クラブ連合会代表	恵那市壮健クラブ連合会	林 弘巳	
7	障がい者団体代表	(財)岐阜県身体障害者福祉協会	三宅 弘文	
8	子育てサークル代表	NPO 法人みんなで子育てドロップス	牧野 香	
			駒宮 博男	令和6年2月～
9	幼児教育関係者	こども元気プラザ	市川 紀美	
10	地域の読み聞かせ団体	東野おはなし会ちちんぷい	千藤 真理子	
11	地域の読み聞かせ団体	明智町読み聞かせの会	伊藤 しき	
12	公 募		佐藤 暁彦	
13	公 募		佐藤 亜弥美	
14	公 募		安藤 俊人	

(3) 策定委員会 作業部会委員名簿

No.	選 出	所 属	氏 名	備考
1	学校図書館	三郷小学校	浅井 香奈子	
2	学校図書館	山岡中学校	前田 和津寿	
3	学校図書館	恵那高等学校	鈴木 智草	
4	学校教育関係	学校教育課	小栗 研	
5	学校教育関係	教育研究所	小島 光太郎	
6	幼児教育関係	幼児教育課	各務 恵美	
7	幼児教育関係	東野こども園	市川 紫	
8	家庭教育関係	こども元気プラザ	市川 令子	
9	家庭教育関係	健幸推進課	今井 典子	
10	福祉関係	社会福祉課	島崎 美樹	
11	社会教育関係	生涯学習課	伊東 将昭	部会長
12	社会教育関係	コミュニティセンター	阿知波 志保子	
13	図書館司書	中央図書館	岩谷 千恵	



第四次恵那市子どもの読書活動推進計画

令和6年3月発行

恵那市

恵那市子どもの読書活動推進計画策定委員会

事務局 恵那市中央図書館

〒509-7205 岐阜県恵那市長島町中野二丁目2番地5

電話 0573-26-6923